新幹線文化財調査事務所調査報告書　第7集

九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

Ⅶ

一里松遺跡（いちりまついせき）

２０１８

長崎県教育委員会

調査区周辺（西から）オレンジのネットフェンスに囲まれた範囲が調査区

調査区周辺（東から）大村湾が遠望できる

序　　文

本書は、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設に伴い平成 28 年度に実施した一里松遺跡の調査成果を収録した埋蔵文化財発掘調査報告書です。

一里松遺跡は大村湾の湾奥に注ぐ東大川河口から 1.5㎞遡ったところに位置する縄文時代の遺跡です。諫早から長崎の新幹線工事区間が正式決定されたのち、ルート上に遺跡が存在しないか分布調査を実施しました。その結果、黒曜石等、その当時の人々が遺した遺物を発見したことから、試掘調査を実施し、遺跡範囲を確定しました。関係機関と協議を行い、当該箇所については記録保存のための緊急埋蔵文化財調査を行うこととなりました。

県教育委員会は、これまでも各種開発事業において、協議・調整を重ね、文化財保護に尽力してまいりました。九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設事業につきましても、建設計画当初より可能な限り保存に努めていただくよう独立行政法人鉄道建設･運輸施設整備支援機構および関係機関との協議を重ね、一里松遺跡については記録保存する運びとなりました。

本書を刊行するにあたり、鉄道建設･運輸施設整備支援機構、発掘調査に携わった方々をはじめ、多大なご尽力・ご協力をいただきました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

また、本書を文化財保護ならびに地域の歴史を学ぶ資料として活用していただくことになれば幸いです。

平成 30 年 3 月 31 日
長崎県教育委員会教育長
池　松　　誠　二

例　　言

1　本書は長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所が実施した九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)建設工事に係る一里松遺跡の平成28年度調査の発掘調査報告書である。調査期間は平成28年4月21日～同年6月20日、580㎡を調査した。平成26年度に行った（仮称）平山遺跡の試掘・範囲確認調査の調査期間は平成27年9月1日～同年9月14日で40㎡を調査した。

2　本調査区は諫早市平山町52-5に所在する。

3　調査に際して発掘調査業務の一部を株式会社大信技術開発に委託した。

4　遺跡の本調査の出土遺物の洗浄・分類・注記、台帳類の作成、報告書掲載遺物の実測は新幹線文化財調査事務所久原現場事務所において行った。

5　本調査での現場記録は濵村一成の指示の下、実測図作成を新久保恒和が行った。現場での写真撮影は濵村・新久保が行った。

6　本報告書の執筆は、主に村川逸朗が行った。その際、担当者が作成した範囲確認調査および本調査の結果報告の記述を参照し、文末に執筆者を明記した。

7　遺物の実測は、濵村一成・新久保恒和・中尾篤志・村川逸朗及び内業作業員横田愛子・大谷内美智子・松尾幸弘が行った。図面のトレースに際しては成田万里・横田愛子の助力を得た。遺物の撮影は主に文化財調査員東郷一子が行い、石鏃は村川が行った。

8　本報告書の編集は村川逸朗が行った。

9　本調査の調査番号はICH201601である。

10　調査にかかる遺物および調査記録は全て新幹線文化財調査事務所久原現場事務所で保管している。

11　堆積土層の土色は『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した。

12　石器の実測・トレースは大成エンジニアリング株式会社に委託した。

目　　次

※（　　）内は執筆者

本　文　目　次

Ⅰ　調査の経過（村川）　・・・

表　目　次

第１表　土器観察表　・・・

Ⅰ　調査の経緯

1　調査組織

一里松遺跡の発掘調査は、長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所が調査主体として担当した。本調査に際しては、発掘調査業務の一部（安全管理・発掘作業員の雇用・労務管理・測量・遺構実測・空中写真撮影・その他の仮設業務）を株式会社大信技術開発に委託し、両者の調査員が合同して現場調査に当たった。

なお、職名は全て当該年度のものである。

（1）平成26年度　試掘範囲確認調査

新幹線文化財調査事務所　所長　古門雅高　課長　杉原敦史　田尻清秀
係長　村川逸朗　主任主事　浜口広史

調査担当　係長　村川逸朗
主任文化財保護主事　川畑敏則

（2）平成28年度　本調査

新幹線文化財調査事務所　所長　古門雅高
課長　杉原敦史　小島克孝
係長　中尾篤志
主任主事　浜口広史　（～9月30日）
主事　水口真理子（10月１日～）
班長（文化財調査員）　村川逸朗

調査担当　文化財保護主事　濵村一成　文化財調査員　新久保恒和

株式会社大信技術開発
現場代理人　中島健太郎　調査員　竹田将仁　加世田 尊　吉岡慈文

Ⅱ　地理的・歴史的環境

1　地理的環境

諫早市は長崎県本土部のほぼ中央に位置している。市の北部は多良火山系の五家原岳を頂点とした火山山麓で有明海まで丘陵がのびており、市の南部は溶岩円頂丘からなる山地、溶岩台地からなる丘陵、雲仙火山系からのびる断層崖が見られる。そして南北両地域に挟まれた平野及び両地域内に介在する低地が広がっている。地勢上、長崎半島・西彼杵半島・島原半島の結節部にあたり、大村湾・橘湾・有明海に挟まれた地峡部に位置することから、古くから水上交通と陸上交通の要衝としての位置を占めてきた。

一里松遺跡は諫早市平山町に所在し、遺跡周辺は大村湾に流れ込む東大川によって灌漑される狭小な耕作地帯となっている。戦後２回の大水害（諫早豪雨・長崎大水害）を契機とした河川改修時の河床切り下げ・拡幅の影響で疑似的な河岸段丘状を呈した地形で、南側は東大川に面し、調査区北側は一段低くなって水田として利用されており、さらに北側は急激に傾斜して高くなり、その先の台地部には市街地が広がっている。今回の調査地は南側に位置する東大川と北側に位置する台地部に挟まれた場所に形成された段丘上に立地し、標高は７ｍ程度である。（新久保）

2　歴史的環境

諫早市内には旧石器時代から近世にかけての遺跡が多く存在している。

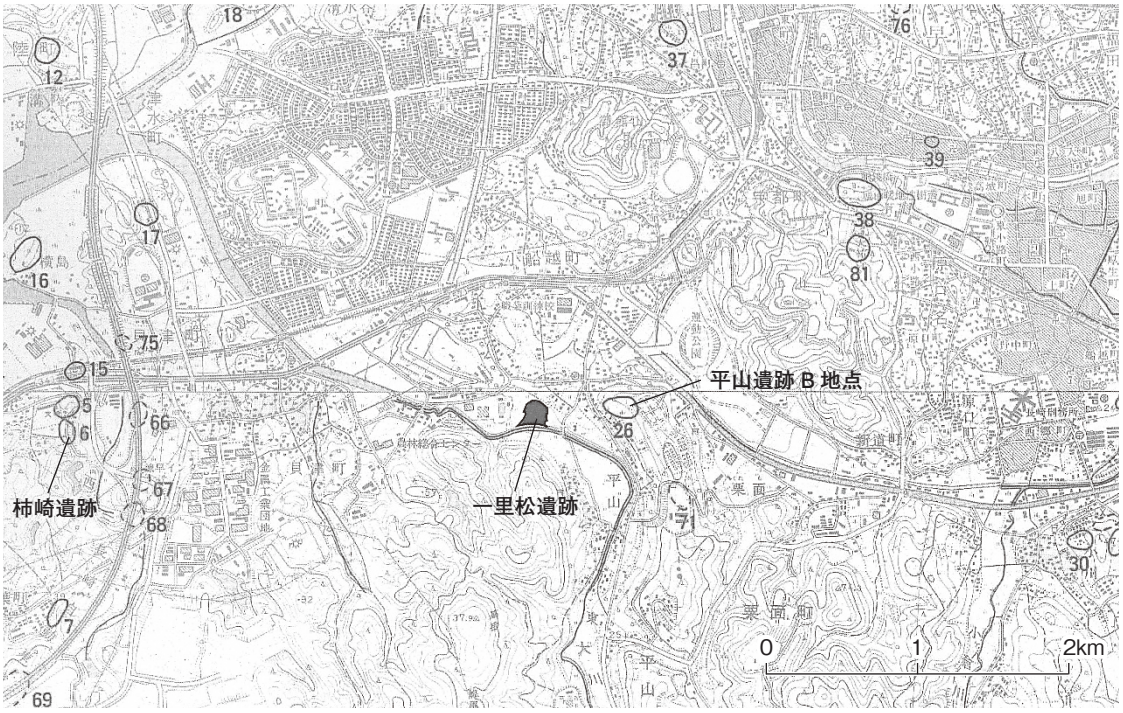
今回の調査地周辺に目を向けると、旧石器時代では、調査地西側の西大川と東大川に挟まれた標高 10 ～ 30m ほどの微高地上に所在する西輪久道遺跡・鷹野遺跡・柿崎遺跡・雀ノ倉遺跡から旧石器時代のナイフ形石器などが出土している。

縄文時代では、西輪久道遺跡・鷹野遺跡から縄文時代早期塞ノ神式から前期曽畑式の土器や石鏃などの石器が出土している。また、調査地東側の台地の突端部には縄文時代の遺物包含地である平山遺跡Ａ地点が所在し、黒曜石などが表採されている。平山遺跡Ａ地点から東側の標高約 50 ｍの台地上には平山遺跡Ｂ地点が所在し、押型文土器や鍬形鏃などが出土している。東大川河口部に目を向けると、浜田遺跡から縄文前期の曽畑式、後期の御領式、晩期の黒川式などの土器が出土している。

弥生時代では、東大川河口部に立地する滑川遺跡から弥生時代中期初頭の箱式石棺墓が確認されている。また、調査地の東側2kmほどの地点には、諫早農業高校遺跡、南側に小栗A・B・C遺跡（林の辻遺跡）が立地する。諫早農業高校遺跡は明治39年（1906）の農学校建設時に弥生時代の銅剣が出土したことで知られ、甕棺墓があったとされる。小栗B遺跡（林の辻遺跡）からは弥生時代中期前葉から後期後葉を中心とする土器や甕棺墓、箱式石棺墓などが確認されている。

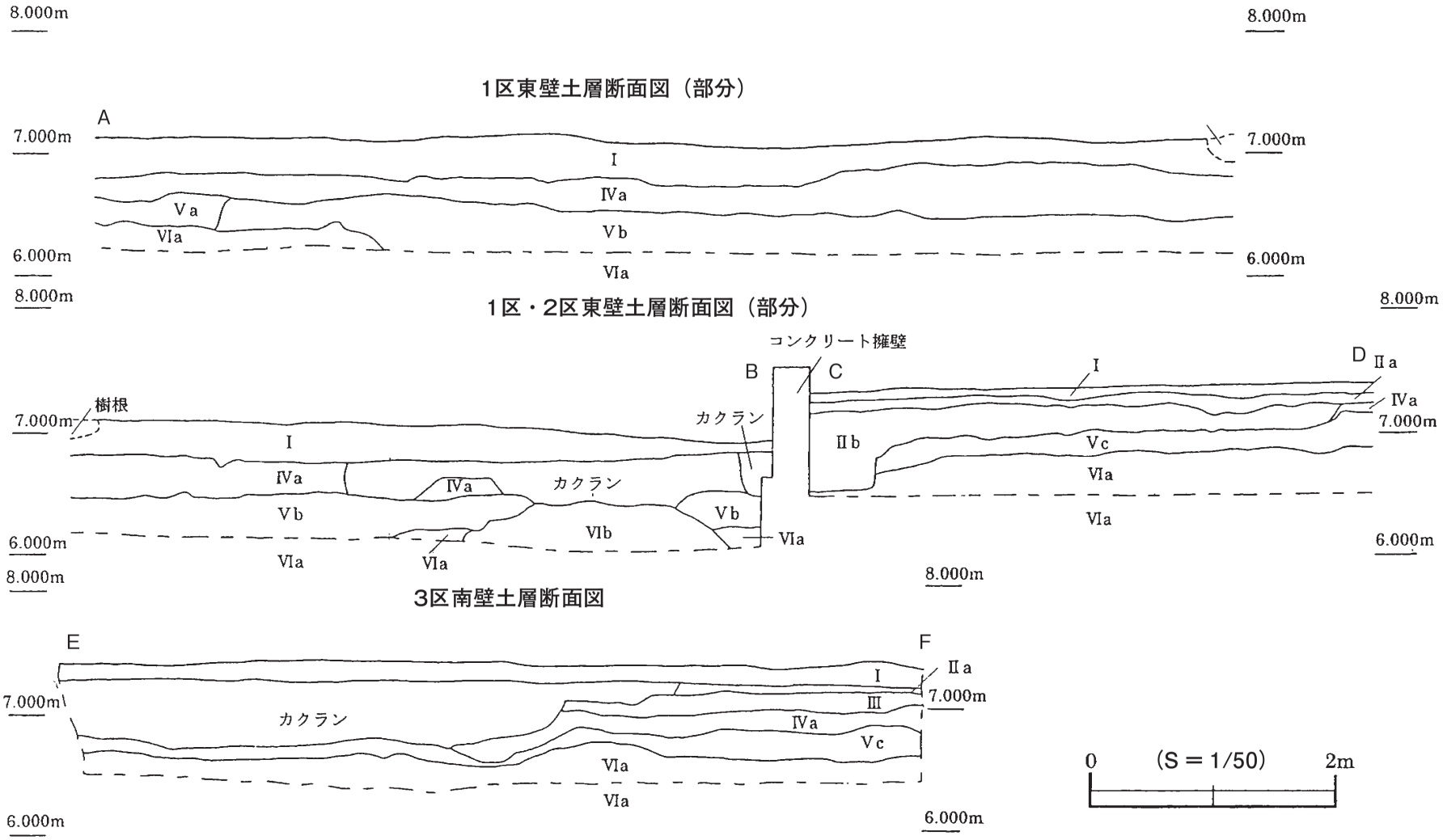
古墳時代では、平山遺跡Ｂ地点において庄内～布留式平行期の甕・高杯など古式土師器が出土している。

調査地周辺における古代から近世においては、古代官道の「船越駅」の存在が想定されており、東大川河口部は中世から近世にかけて津水港が物流の拠点として栄えた。近世には、調査地の北側に長崎街道が整備され、近世の藩政史料では、平山名は東方の栗面村に包括して掌握されていたものと解されている。（新久保）



第 1 図　一里松遺跡位置図（S=1/50,000）

第 2 図　一里松遺跡調査区位置図（S=1/1,000）



第Ⅰ層　耕作土
第Ⅱ層　盛土
・Ⅱa層　現代の盛土。
・Ⅱb層　第Ⅳ層と第Ⅴ層の土が混合した土。近代以降の盛土。
第Ⅲ層　Hue7.5YR6/8 橙粘質土
しまり極めて強い。土中にマンガン粒を含む。
第Ⅳ層　Hue7.5YR5/8 明褐色粘質土
しまり強い。土中にマンガン粒を含む。
・Ⅳa層　Hue7.5YR5/8 明褐色粘質土。しまり強い。土中にマンガン粒を含む。
・Ⅳb層　Hue7.5YR6/6 橙粘質土　しまり極めて強い。土中にマンガン粒を含む。
第Ⅴ層　Hue10YR7/8 黄褐砂質土
中程度のしまりをもつ。土中にマンガン粒を含む。
・Ⅴa層　Hue10YR7/8 黄褐砂質土　中程度のしまりをもつ。土中にマンガン粒を含む。
・Ⅴb層　Hue10YR7/8 黄褐砂質土　中程度のしまりをもつ。土中にマンガン粒を含む。
1区南半で確認できる。第Ⅴa層に比べ砂質が強い。
・Ⅴc層　Hue7.5YR7/8 黄橙砂質土　しまりやや弱い。土中にマンガン粒を少量含む。
第Ⅵ層　Hue7.5YR5/6　明褐色砂質土
しまりやや弱い。無遺物層。
・Ⅵa層　Hue7.5YR5/6　明褐色砂質土　しまりやや弱い。無遺物層。
・Ⅵb層　色はⅥa層に同じ。Ⅵa層に比べ小礫が混じる。無遺物層。

第3図　一里松遺跡土層断面図（S＝1/50）

Ⅲ　調　査

１　調査区（第２図）

調査区上に座標系に合わせて 20 m× 20 mの方眼を組み、グリッドを設定した。グリッド番号はグリッドの右上（北西交点）のＸ座標、Ｙ座標それぞれの百の位と十の位の数字を組み合せた。また、調査計画に合わせて任意に１～３区の調査小区を設定し、各小区単位で調査を実施した。土層の記録は調査区壁に沿って行った。遺物の取り上げはグリッド単位・層単位・遺構単位を基本とし、特に必要と認めたものは出土地点の座標を記録した。（濵村）

２　層　位（第３図）

本調査における基本層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層　耕作土

第Ⅱ層　盛土

・Ⅱａ層　現代の盛土。

・Ⅱｂ層　第Ⅳ層と第Ⅴ層の土が混合した土。近代以降の盛土。

第Ⅲ層　Hue7.5YR6/8 橙粘質土

しまり極めて強い。土中にマンガン粒を含む。１区と２区では確認できなかった。縄文時代から近世までの遺物を含む。近世の耕作土であった可能性がある。

第Ⅳ層　Hue7.5YR5/8 明褐色粘質土

しまり強い。土中にマンガン粒を含む。１区と２区・３区で若干土色や土質が異なり、２層に細分できる。縄文時代早期末から後期初頭の遺物を包含する遺物包含層。

・Ⅳａ層　Hue7.5YR5/8 明褐色粘質土。しまり強い。土中にマンガン粒を含む。１区で確認できる。２区・３区で確認できる第Ⅳｂ層と比べやや暗く、小礫を多く含む。縄文時代早期末から後期初頭の遺物を包含する遺物包含層。

・Ⅳｂ層　Hue7.5YR6/6 橙粘質土　しまり極めて強い。土中にマンガン粒を含む。２区・３区で確認できる。第Ⅲ層に比べやや明るい。縄文時代早期末から後期初頭の遺物を包含する遺物包含層。Ⅳａ層に比べ遺物包含率は少ない。

第Ⅴ層　Hue10YR7/8 黄褐砂質土

中程度のしまりをもつ。土中にマンガン粒を含む。土色や土質の違いによって３層に細分できる。縄文時代早期から前期の遺物を包含する遺物包含層。

・Ⅴａ層　Hue10YR7/8 黄褐砂質土　中程度のしまりをもつ。土中にマンガン粒を含む。１区北半で確認できる。第Ⅴｂ層に比べ粘質が強い。縄文時代早期から前期の遺物を包含する遺物包含層。

・Ⅴｂ層　Hue10YR7/8 黄褐砂質土　中程度のしまりをもつ。土中にマンガン粒を含む。１区南半で確認できる。第Ⅴａ層に比べ砂質が強い。縄文時代前期の遺物を包含する遺物包含層。Ⅴａ層に比べ遺物包含率は少ない。

・Ⅴｃ層　Hue7.5YR7/8 黄橙砂質土　しまりやや弱い。土中にマンガン粒を少量含む。２区・３区で確認できる。縄文時代前期の遺物を包含する遺物包含層。Ⅴａ、Ⅴｂ層に比べ遺物包含率は少ない。

第Ⅵ層　Hue7.5YR5/6　明褐色砂質土

しまりやや弱い。無遺物層。事前に実施された範囲確認調査において、本層から基盤層まで無遺物層が複数層に渡り堆積することを確認しており、本調査時における地山とした。

・Ⅵａ層　Hue7.5YR5/6　明褐色砂質土　しまりやや弱い。無遺物層。

・Ⅵｂ層　色はⅥａ層に同じ。Ⅵａ層に比べ小礫が混じる。無遺物層。1区・2区の一部分で確認できる。（濵村）

3　遺　構

今回の調査では、中世までに帰属する遺構は検出されなかった。なお、調査中に溝1条（SD01）を確認したが、検出層位と該当層の出土遺物の検討により、近現代に構築されたものと判断される。（濵村）

4　遺物の出土状況

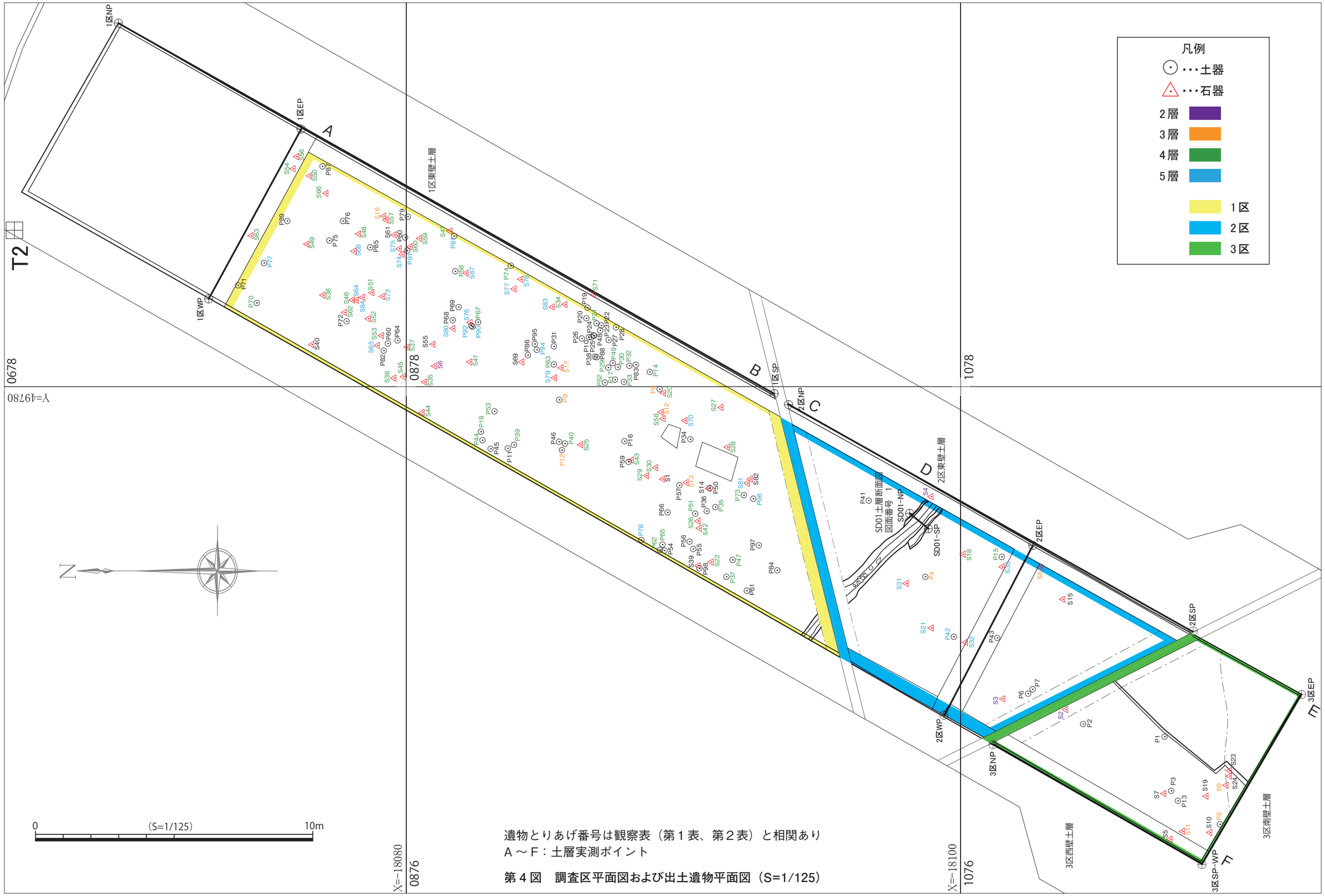
出土遺物は縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・貿易陶磁・近世陶磁器・石器・石製品である。以下、出土層序ごとに概観する。

第Ⅰ層から第Ⅲ層からは、縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・貿易陶磁・近世陶磁器・石鏃・スクレーパーが出土している。弥生土器のうち1点は、調整や焼成のあり方、胎土に石英を含むことなどの特徴から、弥生時代前期の板付式に該当するものと思われる。須恵器・土師器は小片、貿易陶磁は青磁小片であり年代の特定には至らない。近世陶磁器はいわゆる「くらわんか手」と呼ばれるものである。

第Ⅳ層からは縄文土器・石器・石製品が出土している。Ⅳａ層がⅣｂ層に比べ出土遺物数が多い傾向がうかがえるが、両層を比較して出土遺物の年代観に違いはみられない。破片資料が多いが、出土土器の主体となるのは、口縁部に列点文を有し、その下部に押引文を有しているもので、胎土には滑石を含まないものであり、水ノ江和同の分類（「伊木力遺跡」多良見町教育委員会・同志社大学考古学研究室 1990）による曽畑Ⅱ式に該当するものと思われる。この他に縄文時代早期の塞ノ神式、前期の轟Ｂ式・西唐津式・曽畑Ⅰ式、中期の船元式、後期の坂の下式に比定される土器が出土している。

Ⅳａ層出土土器中、特記すべきものとして、器形全体が復元可能なものが1点出土している（第6図 37）。胴部は膨らまずストレートに開き、口縁部は須恵器坏身の受部と口縁部に似た形状を呈した鉢となる。器面全面に凹線による直線的施文が見られる。また、外面のみが強く赤色を呈していることから、赤色顔料が塗布された可能性がある。縄文時代後期初頭の坂の下式に該当する鉢と思われるが、同様の器形と施文をもつ事例を現在のところ確認できていない。

石器では石鏃・石匙・スクレーパー・石銛・磨製石斧・石核が出土している。石銛が2点出土しているが、他は石鏃や石匙などの狩猟・解体に用いる道具で占められていることに特徴がある。石鏃は凹基式もしくは平基式の石鏃であり、ほとんどが黒曜石製で安山岩製が若干数みられる。黒曜石は灰色から黒色まで色調が異なるものが各種あり、複数の原産地のものがあることがうかがえる。石匙は安山岩製で縦長と横長両方の形状のものがみられる。磨製石斧は基部と刃部、および裏面を欠損しており、石材は蛇紋岩と思われる。



遺物とりあげ番号は観察表（第１表、第２表）と相関あり
Ａ～Ｆ：土層実測ポイント

第４図　調査区平面図および出土遺物平面図（S=1/125）

また、石製品ではⅣａ層から石製装身具が１点出土している（第 13 図 88）。白色の石材が使われており、上部に穿孔が１ヶ所ある。中央部から先端部まで横方向に凹凸をつけ、研磨されている。同様製品は近隣においては大村市竹松遺跡（TAK201304 調査区）で出土しているが、類例の少ない製品である。

第Ⅴ層からは縄文土器・石器・石製品が出土している。遺物出土数はⅤａ層が最も多く、次いでⅤｂ層、Ⅴｃ層の順という傾向がうかがえる。すべて破片資料で器形全体が復元できる資料の出土はない。塞ノ神式・轟Ｂ式・曽畑式（曽畑Ⅰ式・曽畑Ⅱ式）に該当する土器片がみられる。出土遺物の主体が曽畑Ⅱ式であることは共通しているが、Ⅴａ層・Ⅴｃ層からは塞ノ神式や轟Ｂ式などが出土し年代幅が認められることに対し、Ⅴｂ層出土遺物は曽畑Ⅱ式でまとまっていることが特徴として挙げられる。

石器は石鏃・スクレーパー・石核が出土している。形状や石材などに第Ⅳ層出土石器と大きな違いはみられない。（濵村）

５　遺　物

（１）土器

今回の調査面積580㎡の範囲内Ⅲ～Ⅴ層等から、土器304点、石器275点が出土した。出土した土器は細片が多く摩滅したものも多い。主体をなすのは曽畑式土器であり、それ以外は少ないが、坂の下式土器の完形に近い鉢が出土しているのが注目される。縄文時代早期から晩期までのものが認められる。

下記のⅠ～Ⅹ群に分けて説明を行いたい。

第Ⅰ群土器　早期の土器（塞ノ神式土器）
第Ⅱ群土器　前期前半の土器（轟B式土器）
第Ⅲ群土器　西唐津式土器（プロト曽畑式土器）
第Ⅳ群土器　前期後半の土器　曽畑式土器
　　第１類　曽畑Ⅰ式土器
　　第２類　曽畑Ⅱ式土器
　　第３類　曽畑Ⅲ式土器
第Ⅴ群土器　中期前半の土器　船元式土器
第Ⅵ群土器　中期後半の土器　坂の下式土器
第Ⅶ群土器　後期の土器　縁帯文土器
第Ⅷ群土器　後・晩期の土器　粗製土器
第Ⅸ群土器　その他の土器
第Ⅹ群土器　底部等

①　第Ⅰ群土器

1 は平栫式か塞ノ神式土器と思われる口縁端部である。器壁は荒れているが、撚り糸状の文様が横方向とその下に縦方向に入っているのが確認できる。**44**も塞ノ神式土器ではないかと思われる口縁端部である。器壁は荒れているが内面のナデ調整と外面の列点状の文様はわかる。**48**も平栫式か塞ノ神式土器と思われるものである。**49**も**48**と同様の文様を持つものである。

② 第Ⅱ群土器

2は屈曲部のところの破片である。内外面に条痕が認められる。轟Ｂ式土器と思われる。3は胎土に滑石が微量含まれるものである。表に条痕が認められるところから轟Ｂ式土器と思われる。4は薄手で表に条痕を施している轟Ｂ式土器と思われる。43も轟式の口縁部である。

③ 第Ⅲ群土器

5は小破片であるが、供養川遺跡第Ⅲ群ｂ類の西唐津式土器特有の円弧文の一部が認められるものである。西唐津式土器である可能性が高い。

④ 第Ⅳ群第1類

6は薄手で表裏に丁寧にナデ調整を施して、外面に鋸歯文を施文している曽畑Ⅰ式土器であるが、滑石は含まない。

⑤ 第Ⅳ群第2類

7は内外面とも横方向の沈線を施す口縁部で、上端には刺突列点文を施している。内側には横走沈線の上の口縁直下に列点文を施す。8も内外面に横方向の沈線を施す口縁部で、上端には刻目状のものが認められるが、刺突列点文を省略化したものか、器壁がもろくなって摩滅し、文様がはっきりしないのかは判然としない。曽畑Ⅱ式土器と思われるが、滑石は含まない。9も横方向の沈線を施している。摩滅が激しいが、曽畑Ⅱ式土器であろう。これも滑石を含まない。10も横方向の沈線が施された後に縦や斜めの沈線を施すものである。外面の色調が灰黄色、内側が灰黄褐色を呈し胎土も堅緻で指で表面をなぞるとすべすべしている。滑石を含んでいる。伊木力遺跡第3群第3類の範疇に入るものと考えられる。口縁部の近くだと思われる。11は図では横方向の連続する沈線を施しているように示しているが、90度回転して縦方向の文様の土器破片だとも考えられる。沈線のつなぎ目のところの文様が認められる。12は比較的厚みがあり、横方向のやや太い沈線を施している。滑石は含まない。13は縦走する沈線の上に横走沈線を施している。表面に光沢があり触れると滑らかな感触である。滑石を含んでいる。14は摩滅が激しく文様も確認しづらい。横走沈線のあとに斜走沈線を施している。15は口縁上端部に刺突列点文を有し、その下に列点文と横走沈線を施すものである。深堀遺跡第Ⅴ群第1類の範疇に入る曽畑Ⅱ式土器だと思われる。16は数条の横走する沈線が認められ、2，3本の沈線は交差しているのが認められる。曽畑Ⅱ式土器だと思われるが、滑石は含まない。17は横走沈線を施した後に縦２本の沈線を施している。曽畑Ⅱ式土器だと思われるが、滑石は含まない。18は複合鋸歯文をもつ曽畑Ⅱ式土器だと考えられるが、滑石は含まない。文様としては供養川遺跡第Ⅳ群ｂ類の範疇に入るものと思われる。19も横走する数条の沈線が認められ曽畑Ⅱ式土器だと考えられるが、滑石は含まない。20は内外両面に横走する数条の沈線を施すものである。これに斜めに交差する細い沈線も認められる。曽畑Ⅱ式土器だと考えられるが、滑石は含まない。21は規則的な横走沈線を施した後に、縦走沈線を施す。深堀遺跡第Ⅴ群の範疇に属すものと思われ、曽畑Ⅱ式土器だと考えられるが滑石は含まない。22は横走沈線を施し、それに交差するように縦走沈線を施している。類例としては供養川遺跡第Ⅳ群ｂ類、曽畑Ⅱ式土器の範疇に入るものと思われるが、滑石は含まれない。23は薄手の器壁で、上述したものと同じように横走沈線を施している。先端部が丸い施文具によって、施文されたような、文様の端部が認められる。滑石は含まれない。24は口縁端部であるが、

横走する沈線と口縁部の上端に刻み目状の文様が認められる。深堀遺跡第Ⅴ群の範疇に入るものと思われるが滑石は含まない。25 は数条の横走沈線と弧線および斜線が交差するものである。曽畑Ⅱ式土器と思われるが、滑石は含まれない。伊木力遺跡の第 3 群土器の範疇に入るものと思われる。26 も同じく内外両面に鋸歯文をもつ曽畑Ⅱ式土器である。滑石は含まれない。27 は口縁部で内外両面に横走沈線を施す。口縁が少し外反する。口縁上端部に刺突列点を施す。伊木力遺跡第 3 群土器第 2 類の範疇に入るものと思われるが、滑石は含まれない。28 は外面に鋸歯文が認められる。滑石は含まないが、曽畑Ⅱ式土器の範疇に含まれるものと思われるが、滑石は含まない 29 は口縁部であるが、口縁最上位と縦方向の刺突文によって、横走沈線を区画している。滑石は含まない。30 は浅い沈線で横走する数条の沈線とその間に刺突文を施す。滑石は含まない。千里ケ浜遺跡第Ⅳ群第 5 類土器の範疇に入るもので、曽畑Ⅲ式土器だと思われる。31 は外面に大き目の刺突文が施されるものである。摩滅が激しく沈線や文様が見えにくい。滑石を含まない。

⑥ 第Ⅳ群第 3 類

32 は表面の斜線が、ややランダムに施されるものである。曽畑Ⅱ式土器の文様に比べて規則性が崩れており曽畑Ⅲ式土器の範疇に入るものであろう。滑石を含まない。深堀遺跡Ⅶ群第 2 類に属するものであろう。33 は曽畑Ⅲ式土器か轟 C・D 式土器であろう。滑石は含まない。摩耗が激しいが、押引文のような文様が認められる。刺突文も認められるところから、曽畑式土器の系譜上にあたるものとも考えられるが、轟 C・D 式である可能性もある。深堀遺跡第Ⅶ群土器に類するものか。34 は曽畑Ⅱ式土器の底部である。幾何文を沈線で施している。滑石は混入していない。35 も同じく底部であるが、文様は認められない。

⑦ 第Ⅴ群土器

36 は口縁部片で、上端に刺突文があり、その下にも横走する刺突文が施されている。船元Ⅰ式土器である。

⑧ 第Ⅵ群土器

37 は完形に近い坂の下式土器である。内面は条痕のちナデ調整を行い（底部及び口縁内面に一部条痕残あり）、外面はナデ調整を行う。文様は外面全体を縦方向の沈線で大きく三つに分割し、その中を三角形くり込み文と短沈線文を組み合わせて構成している。外面には全体に丹塗りの痕跡がある。ブリッジ状の突起が一ケ所現存している。

⑨ 第Ⅶ群土器

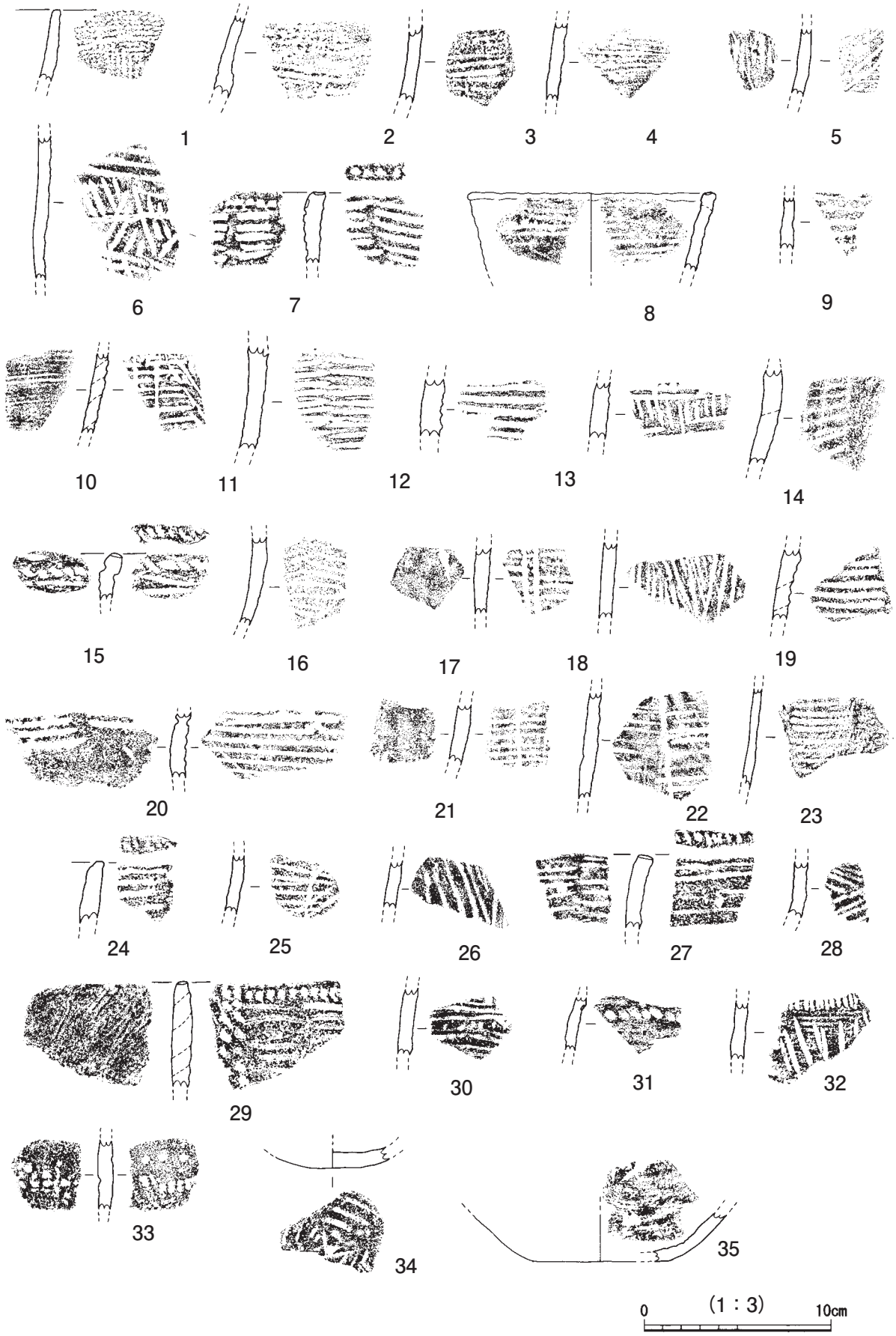
39 は縁帯文土器の口縁部である。外面は条痕、内面はナデ調整を施す。縁帯部に 2 条の浅い凹線が認められる。41 も縁帯文土器の口縁部である。口縁部は外反し端部は短く立ち上がる。外面は条痕のち丁寧にナデ、内面は指頭痕あり、丁寧なナデ。復元口径は 23.8㎝を測る。

⑩ 第Ⅷ群土器

46 は内外面に条痕が認められる胴部片である。47 は内面にナデ調整、外面に条痕が認められる胴部片である。

⑪ 第Ⅸ群土器　その他の土器

38 は浅鉢胴部片である。内外面双方に指頭痕が残っている。上端は粘土の輪積みの接合部にあたるものかもしれない。内面には条痕が認められる。58 は外面により糸状の原体による文様を持



第５図　出土土器①（S=1/3）

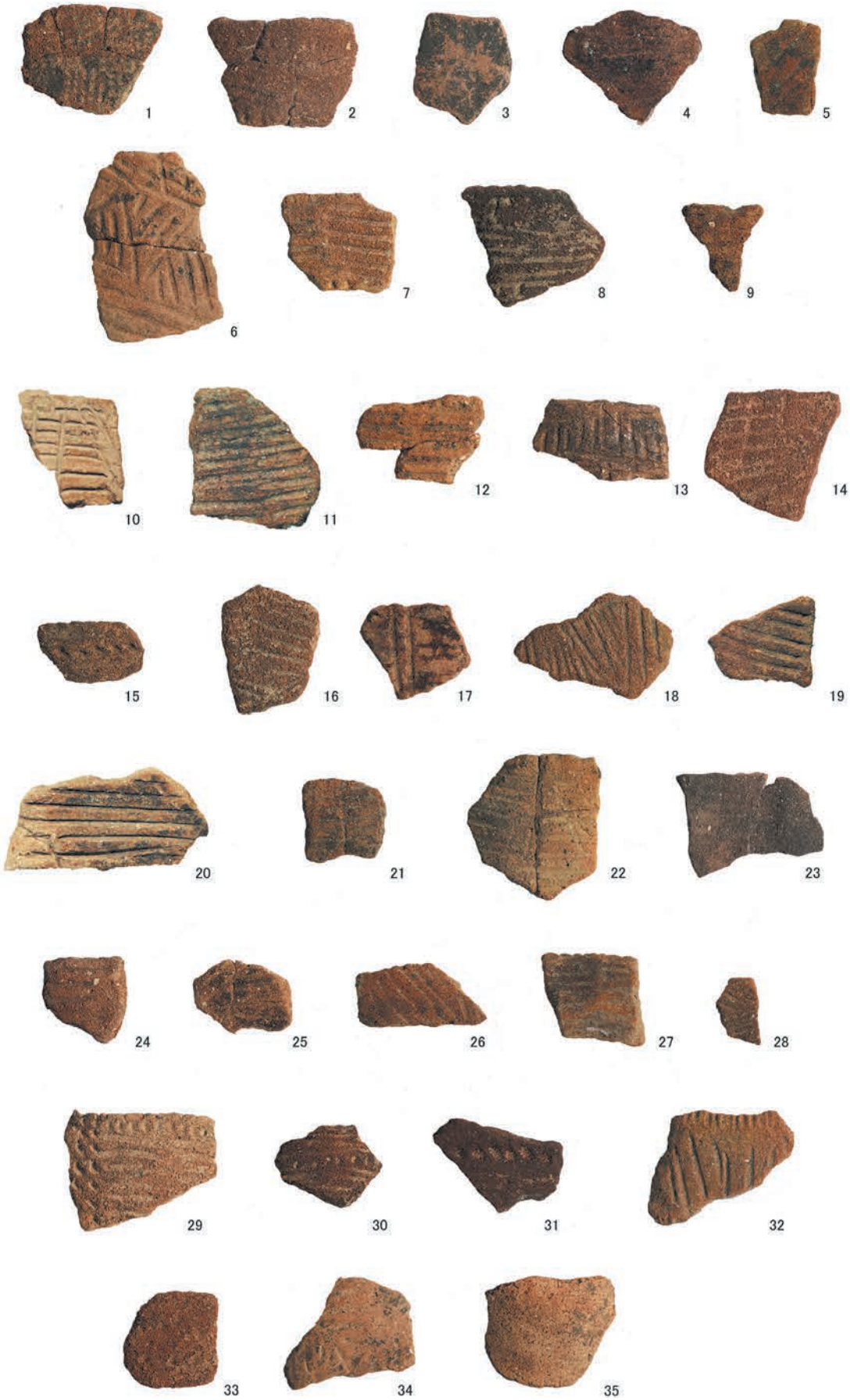
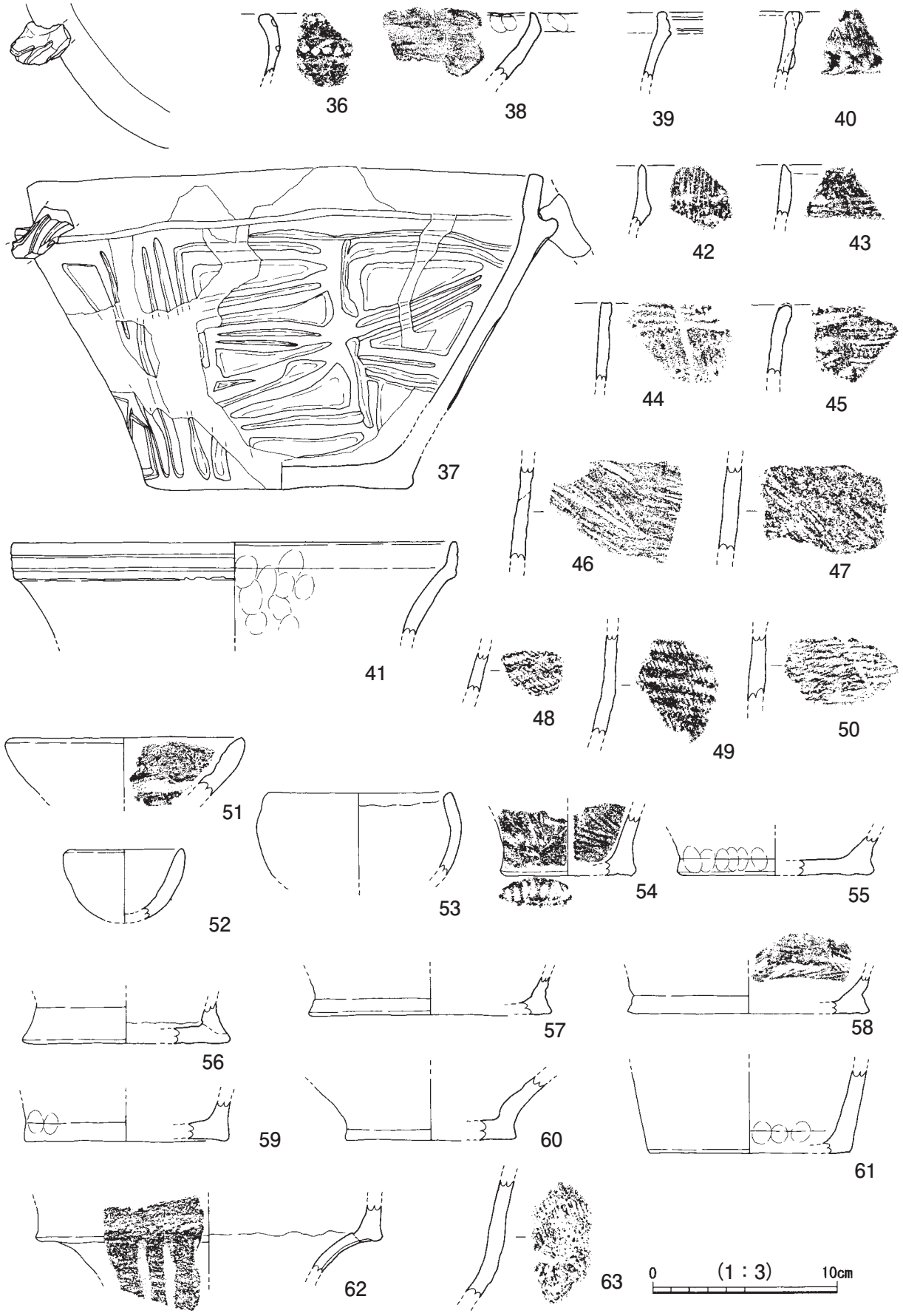

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35

写真1　出土土器①



第６図　出土土器②（S=1/3）

36
38
39
40
37
42
43
44
45
41
46
47
51
48
49
50
52
53
54
55
56
57
58
59
60
62
63
61

写真２　出土土器②

つものである。摩滅と残存部が少ないので型式名等不明である。51 は口縁部で復元口径は 12.4 ㎝を測る。52 も同じく口縁部で、復元口径は 6.6㎝を測る。53 も口縁部で復元口径は 6.0㎝である。62 は頸部片である。外面の頸部に縦方向の幅 5㎜の凹線が認められる。63 は胎土に砂粒を多く含む。刷毛目状の調整痕が残っている。

⑫ 第Ⅹ群土器　底部

54 は底部で、復元底径は 6.8㎝である。内外面に条痕が残り、外底にも列点状のものが認められる。深鉢の底部であろう。55 も深鉢の底部で復元底径は 10.6㎝、内外面ともにナデ調整を施す。下端には指頭痕がついている。滑石を混入する。56 も底部である。内外面に指押さえの跡が残っている。滑石を混入する。57 も底部である。滑石を混入する。58 も底部であるが、内底隅に条痕が残っている。滑石を混入する。59 も底部である。内外面ともにナデ調整を施す。外面には指頭痕も残っている。滑石を混入している。60 も底部である。内外面ともに条痕のちナデ調整を施す。底部からの立上りに指頭痕がある。

（2）石器

今回の調査では縄文時代早期から同晩期の時代幅での土器の出土を見ているので、石器の所属範囲もその中に納まるものと考えられる。土器と石器の関係性も考慮しながら説明を進めたい。

1～39、41～56は石鏃である。大きさ・形態等多岐にわたるが、形に注目してみてみるとそれぞれ特徴を持っている。1、10、13、19、38、39は比較的小ぶりの石鏃である。一次剥離面を表裏どちらかの面に残すことが多い。側縁は直線的であるが、形を作り上げるための調整痕が大きくやや省略したような印象を受ける。基部に抉りを入れるがそれほど深くはない。両脚部の端部は直線的である。17もやや大きめだが、同じ範疇に入るものかもしれない。11も同じように考えられるが17より大きい。19の側縁加工注目すると、細かな凹凸が認められる。これが鋸歯加工の先駆けを成すものかどうかはわからないが、注目したいところではある。2と3の特徴としては、先端部に近いところがすぼまるものである。脚部端は丸い。5と6は丁寧な調整を行い、左右シンメトリーに仕上げるものである。厳密に見れば5の側縁は直線的、6はやや丸みを帯びるといえる。6、7、8は基部が平基に近い凹基になるものである。9と47は鋸歯加工を行い、比較的細身のものである。14と24は石鏃の未成品である。16と18は側縁部が直線的で側縁部中ほどに調整加工を施す時のアクシデントとも考えられるようなくびれ部を持つものである。石鏃の形態の特徴を成すものとして、この中ほどで先端部の角度が鋭角だったものが、ここから脚部に下がるに従い幅広になる例があるので、類型として取り上げてみた。20と52などが、その先端角度は鋭角で中ほどでやや広がり、脚部が広がるものになる。30と42は側縁が直線的で基部には半円形の抉りを入れるものである。脚部端は直線的で幅広になる。27と29は両脚部端が尖るものである。29は長さと幅の比が縦に長くなる。31、32、35、36は左右非対称形になるものである。31、35は片方の脚部に細かな抉りを入れている。55はずんぐりした形態の石鏃になる。

57、58 は石斧である。57 は左右両側縁が平行になる。58 も同様な形であるが、特に刃部のすぐそばまで側縁加工を施していて、片方の側縁は、若干弓なり状に抉るような加工を行っている。

59、68、69、71は横型、109は縦型の石匙である。携帯用の加工具と言われているが、数量的

に少ないし、破損品であり、形の似たものがない。

74、75、79～81、83、86、87、89、90、95、103、104、119は各種スクレーパーである。74は安山岩製のコアを利用したスクレーパーである。図の上辺にスクレーパーエッジを作出し、下辺には使用痕が残っている。75は薄手の安山岩製剥片を利用したコンケイブトスクレーパーである。79もスクレーパーエッジを作出している。80は下辺を使用している。81は左辺にスクレーパーエッジを作出している。81は表裏両面からの刃部加工を施したスクレーパーである。83は下辺に部分的にスクレーパーエッジを作出している。86は比較的厚みがある素材に刃部調整を施してスクレーパーエッジを作出している。87はコアを利用したスクレーパーである。89はスクレーパーエッジ加工が一側縁だけでなく、下端の先端部をまわってU字ないしはV字状にスクレーパーエッジがつくものである。切るだけでなく、突いて切り割く機能を持つものか。90は下辺の一辺に細かなスクレーパーエッジを作出している。95は石錐である。103も二辺にスクレーパーエッジを作出しV字状の刃部をもつもので、89と似たような機能を有するものであろう。104は大き目の薄い素材に細かな刃部加工を施している。包丁的な使い方を推測させる。119も二側辺に加工を行い尖った先端部を作出している。出刃包丁的な使い方を推測させる。

40は石鏃、99は石銛である。2点は全く違った形をしているが、40は厚手のないし石鏃の未成品の可能性がある。99は先端部および基部が欠損しているものの石槍ないしは石銛であろう。

73、76、78、82、84、93、94、102、105、107、110、112、113、112、113、115～118、120～123は石核である。ほとんどの石核が打面の設定を行わずに、原礫の平らな面を打面として剥片を剥ぎ取っている。原礫の大きさにも限定されるのだろうが、そこからとれる素材剥片は、不定形で、数も少ないものと思われる。その中で112は平らな打面を設定し、そこから複数の剥片を剥ぎ取り、さらにその剥離面を打面として横に複数の剥離を行っている。伊木力遺跡の石核の分類でⅡaとされたものに似ている。

72は砂岩製の有溝砥石である。図上で上下が破損しており真ん中のところが残存している。斜め方向に2本の研磨の跡の溝がある。

88は石製装身具である。色の付着物があり、さらにその上にうすい黒茶色の付着物が認められる。石材は石灰岩である（註1）。縦に細長い7本のくびれ部を持つ装身具である。装身具自体は乳白色である。大村市竹松遺跡（TAK201304調査区）に於いて同様の石製装身具の出土があり報告されている。

92、96、108は二次加工ある石器である。60、97、114は使用痕が認められる剥片になる。61、62、63、65、66、70は剥片である。いづれも石刃技法による縦長の剥片ではないランダムに剥離されたものになる。67は砕片である。

土器は縄文時代早期の塞ノ神式土器や、前期前半の轟B式土器、西唐津式土器、そして前期後半の土器として曽畑式土器があるが、曽畑式土器についてはこの一里松遺跡の主体となる土器で、Ⅰ～Ⅲ類に細別が可能である。中期前半の土器では船元式土器、中期後半の坂の下式土器や、後期の縁帯文土器、後・晩期の粗製土器等が確認された。曽畑式土器の中では、Ⅱ式が大半を占めⅢ式が少量ありⅠ式は1点のみである（註２）。

第1表　土器観察表

図版番号	遺物番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	色調 外面	色調 内面	焼成	部位	胎土	施文処理 外面	施文処理 内面	施文処理 口唇部	炭化物 外面	炭化物 内面	備　考
図版5	1	266	2区1076	5層	平栫・塞ノ神	2.5YR4/6赤褐	2.5YR5/8明赤褐	不良	口縁	雲母・石英	繊維痕	ナデ	—	有	有	P-42
	2	119	1区0876	5a層	轟B	5YR4/2灰褐	5YR4/3にぶい赤褐	不良	胴部	雲母多・石英	沈線	沈線	—	無	無	—
	3	0031	1区0676		轟B?	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/4にぶい赤褐	良	胴部	長石・滑石	沈線	不明	—	有	有	—
	4	281	3区1076	3層	轟B	7.5YR5/6明褐	7.5YR4/6褐	良	胴部	石英・長石・角閃石・雲母	条痕	不明	—	有	無	—
	5	91	1区0876	4a層	西唐津	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	良	胴部	石英・雲母	沈線	沈線	—	有	有	—
	6	78,106	1区0876	4a層	曽畑Ⅰ	7.5YR7/2明褐灰	7.5YR6/4にぶい橙	良	胴部	石英・雲母・滑石	横走沈線複合鋸歯文	ナデ	—	有	有	P-62, 65
	7	39	1区0876	3層	曽畑Ⅱ	5YR4/6赤褐	7.5YR5/6明褐	良	口縁	角閃石・雲母	条痕	条痕	刺突列点文	無	無	P-9
	8	184	1区0878	4a層下層	曽畑Ⅱ	10YR4/3にぶい黄褐	10YR4/3にぶい黄褐	不良	口縁	石英・長石	沈線	沈線	刺突列点文	無	無	P-67
	9	97	1区0876	4a層	曽畑Ⅱ?	7.5YR5/8明褐	7.5YR5/8明褐	不良	胴部	石英・長石	横走沈線	ナデ	—	無	有	摩滅
	10	187	1区0878	4a層	曽畑Ⅱ?	5YR7/4にぶい橙	5YR5/4にぶい褐	良	胴部	石英・長石・雲母	横走・斜走沈線	沈線	—	無	無	文献6　P-74
	11	64	1区0876	4a層	曽畑Ⅰ?	7.5YR5/4にぶい褐	5YR5/8明赤褐	良	胴部	石英・長石・角閃石・貝殻	縦走沈線	ナデ	—	無	無	文献6
	12	106	1区0876	4a層下	曽畑Ⅱ?	7.5YR6/4にぶい褐	7.5YR6/4にぶい褐	良	胴部	石英・長石・角閃石・貝殻	横走沈線	ナデ	—	無	無	P-65
	13	292	1区0678	5a層	曽畑Ⅱ	2.5YR3/6暗赤褐	5YR5/8明赤褐	良好	胴部	石英・長石・雲母・滑石	縦走沈線上に横走沈線	ナデ	—	有	有	P-92
	14	110	1区0876	4a層下層	曽畑Ⅱ?	10R3/6暗赤	5YR3/6暗赤褐	不良	胴部	石英・長石	横走上に斜走沈線	ナデ	—	無	有	P-73
	15	123	1区0876	5a層	曽畑Ⅱ	5YR5/8明赤褐	5YR5/8明赤褐	不良	口縁	石英・長石・角閃石	刺突・横走沈線	ナデ	刺突列点文	無	無	文献5　P-96
	16	143	1区0878	4a層上層	曽畑Ⅱ	2.5YR4/8赤褐	5YR5/8明赤褐	不良	?	長石・角閃石	横走沈線	ナデ	—	無	無	摩滅　P-14
	17	22	1区0678	5b層	曽畑Ⅱ	2.5YR5/8明赤褐	2.5YR4/8赤褐	良好	胴部	石英・長石・雲母	横走上に二条縦走沈線	ナデ	—	有	無	P-91
	18	62	1区0876	4a層	曽畑Ⅱ	2.5YR5/8明赤褐	2.5YR5/8明赤褐	良好	胴部	石英・長石・角閃石	斜走沈線	ナデ	—	無	無	文献4　P-17
	19	38	1区0876	3層	曽畑Ⅱ	2.5YR4/8赤褐	2.5YR4/8赤褐	不良	胴部	石英・角閃石・雲母	横走沈線	ナデ	—	無	無	P-8
	20	40	1区0876	3層(4層境)	曽畑Ⅱ?	5YR5/6明赤褐	7.5YR5/8明褐	良好	胴部	石英・長石・貝殻	横走沈線	横走沈線	—	有	無	P-12
	21	69	1区0876	4a層	曽畑Ⅱ	2.5YR4/8赤褐	2.5YR4/8赤褐	良	胴部	石英・長石・角閃石	規則的横走上に縦走沈線	ナデ	—	?	?	文献5　P-51
	22	23,24,25	1区0678	5b層	曽畑Ⅱ	2.5YR4/8赤褐	7.5YR5/8明褐	良好	胴部	石英・長石・雲母・滑石	横走上に縦走沈線	ナデ	—	有	有	文献4
	23	227	1区0878	5a層	曽畑Ⅱ	7.5YR3/1黒褐	7.5YR5/3にぶい褐	良	胴部	角閃石・雲母	横走沈線	ナデ	—	有	有	—
	24	201	1区0878	4a層下層	曽畑Ⅱ	5YR6/8橙	5YR6/8橙	不良	口縁	石英・長石・角閃石・貝殻	横走沈線	ナデ	刺突列点文	無	有	文献5
	25	194	1区0878	4a層上層	曽畑Ⅱ	7.5YR5/8明褐	10YR6/8明黄褐	不良	胴部	石英・長石・角閃石・貝殻	横走上に斜走沈線	ナデ	—	有	無	文献6
	26	67	1区0876	4a層	曽畑Ⅱ	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/6明褐	不良	胴部	石英・長石	斜走沈線	ナデ	—	?	?	文献4　P-47
	27	65	1区0876	4a層	曽畑Ⅱ	明赤褐色	赤褐色	良	口縁	長石・角閃石	横走沈線	横走沈線	刺突列点文	無	有	文献1　P-37
	28	176	1区0878	4a層	曽畑Ⅱ	明赤褐色	橙色	良好	胴部	石英・長石・角閃石	複合鋸歯文	ナデ	ナデ	有	無	文献6
	29	207	1区0878	5a層	曽畑Ⅱ	2.5YR4/8赤褐	5YR5/8明赤褐	不良	口縁	石英・長石・角閃石	横走沈線を刺突文で区画	ナデ	刺突列点文	?	有	P-81
	30	232	1区0878	5b層	曽畑Ⅲ	2.5YR3/6暗赤褐	7.5YR5/6明褐	不良	胴部	石英・長石・雲母	浅い平行沈線と刺突文	ナデ	—	無	有	文献3　P-90
	31	121	1区0876	5a層	曽畑Ⅲ	10R4/8赤	2.5YR3/6暗赤褐	不良	胴部	石英・長石・雲母	大き目の刺突文	ナデ	—	無	有	P-94
	32	238	1区0876	トレンチ	曽畑Ⅲ	2.5YR4/8赤褐	2.5YR4/8赤褐	良	胴部	石英・長石・角閃石	縦や斜めの沈線	ナデ	—	無	有	文献5
	33	212	1区0878	5a層	曽畑Ⅲ轟C･D	5YR5/8明赤褐	10YR6/8明黄褐	不良	胴部	石英・長石・角閃石	押引文・刺突文	押引文・刺突文	—	?	?	文献5
	34	18	1区0678	5b層	曽畑Ⅱ	5YR6/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	良	底部	滑石	沈線	ナデ	—	有	無	P-77
	35	264	2区1076	4a層上層	曽畑Ⅱ	7.5YR5/4にぶい褐	10YR6/4にぶい黄橙	良	底部	角閃石・雲母	ナデ	押圧痕	—	有	無	P-15
図版6	36	244	2区876	2層	船元Ⅰ	10YR4/6褐	2.5Y黄褐	良	口縁	石英・長石・貝殻	刺突文	ナデ	—	有	?	文献2
	37	45,149	1区0878		坂ノ下	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	良	ほぼ完	石英・雲母	凹線文ナデ	条痕ナデ	ナデ	?	有	P-20
	38	159	1区0878	4a層	縁帯文	5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	良	口縁	石英・長石・滑石	ナデ	条痕	ナデ?	有	有	P-30
	39	46	1区0876	3層	縁帯文	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR5/4にぶい褐	良	口縁	角閃石・雲母	二条の凹線	ナデ	ナデ	無	無	—
	40	127	1区0876	5a層	隆帯文?	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	良	口縁	石英・雲母・貝殻	隆帯	ナデ	ナデ	無	無	—
	41	150	1区0878	4a層	縁帯文?	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/2灰褐	良	口縁	石英・長石・角閃石・結晶片岩	条痕のちナデ	指頭痕、丁寧ナデ	ナデ	無	有	P-21
	42	282	3区1076	3層	?	10YR5/4にぶい黄橙	10YR5/4にぶい黄橙	不良	口縁	石英・貝殻	斜沈線	ナデ?	ナデ	無	有	—
	43	301	2区0876	3層	轟式?	7.5YR3/2黒褐	7.5YR3/2黒褐	不良	胴部	石英・長石	横走沈線	ナデ	—	?	?	—
	44	90,94	1区0876	4a層	塞ノ神?	7.5YR4/2灰褐	7.5YR4/3褐	不良	口縁	石英・長石・貝殻	列点状沈線	ナデ	ナデ	?	?	—
	45	108	1区0876	4a層	?	7.5YR4/4褐	7.5YR6/6橙	不良	口縁	石英・長石	横弧線	ナデ	ナデ	?	?	P-70
	46	165	1区0878	4a層	粗製	10YR6/3にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄橙	良	胴部	石英・長石	条痕	ナデ	—	無	有	P-40

図版6	47	58	1区0876	4a層上層	粗製	5YR5/6明赤褐	7.5YR4/1褐灰	良	胴部	雲母・石英	条痕	ナデ	—	無	有	—
	48	299	2区876	3層	塞神・平栫？	10YR4/２灰黄褐	10YR6/３にぶい黄橙	良	胴部	石英	より糸？	ナデ	—	有	無	—
	49	172	1区0878	4a層	？	10YR６/６明黄褐	10YR７/４にぶい黄橙	良	胴部	石英・長石	？	ナデ	—	有	無	P-58
	50	268	2区1076	5層	？	5YR5/8明赤褐	5YR6/8橙	良	胴部	石英	より糸	—	ナデ	有	無	復元底径106㎜
	51	161	1区0878	4a層	？	10YR4/３にぶい黄褐	5YR５/6明赤褐	良	口縁	石英・雲母	ナデ	ナデ	—	有	無	P-32
	52	118	1区0876	5a層	？	5YR5/3にぶい赤褐	5YR6/6橙	良	口縁	石英・長石・雲母	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	P-78
	53	63	1区0876	4a層	？	5YR4/2灰褐	10YR4/2灰黄褐	良	口縁	石英・長石・雲母	ナデ	ナデ	—	有	有	P-35
	54	276	3区1074	3層	？	7.5YR6/４にぶい橙	7.5YR6/４にぶい橙	良	底部	雲母・結晶片岩	ナデ	条痕のちナデ	—	無	無	P-5
	55	162	1区0878	4a層	？	2.5YR4/6赤褐	7.5YR4/3褐	良	底部	雲母	ナデ指頭痕	ナデ	—	無	有	復元底径106㎜
	56	166	1区0878	4a層	？	5YR6/6橙	5YR6/6明黄褐	良	底部	金雲母・長石・結晶片岩・角閃石	ナデ	ナデ	—	有	無	P-44
	57	164	1区0878	4a層	？	7.5YR6/６橙	7.5YR6/４にぶい橙	良	底部	石英・滑石	ナデ	ナデ	—	無	有	復元底径128㎜ P-39
	58	70	1区0876	4a層	？	7.5YR6/４にぶい橙	7.5YR6/４にぶい橙	良	底部	石英・滑石	ナデ	条痕ナデ	—	有	有	復元底径120㎜ P-53　鯨骨痕有
	59	170,171	1区0878	4a層	？	2.5YR4/6赤褐	5YR5/6明赤褐	やや良	底部	雲母	ナデ	指圧痕	—	無	有	復元底径110㎜ P-49,52
	60	147	1区0878	4a層	？	10YR5/8黄褐	10YR4/3にぶい黄褐	良	底部	石英・長石・雲母・角閃石	指圧痕ナデ	指圧痕ナデ	—	有	有	P-18
	61	79	1区0876	4a層	？	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	良	底部	石英・長石・結晶片岩	ナデ	ナデ	—	無	無	P-63
	62	158	1区0878	4a層	？	7.5YR5/４にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	良	口縁部	赤色粒子・石英・長石・結晶片岩	縦方向5㎜幅の凹線	ナデつけ	—	無	有	P-29
	63	245	2区876	3層	？	10YR７/６明黄褐	7.5YR6/6橙	やや良	胴部	石英・貝殻	ナデ	ナデ	—	無	無	籾痕？　P-4

（注１）隅田祥光氏（長崎大学教育学部准教授）の御教示による。

（注２）海に面するか、近接する千里ケ浜遺跡・供養川遺跡・深堀遺跡・伊木力遺跡に比して、大村湾から内陸に入り込んだ位置に所在する一里松遺跡の曽畑Ⅰ～Ⅲ式土器の出土割合の微妙な差が、遺跡が立地する地理的な特徴を表しているのか、注意が必要ではないかとも考えられる。石器については、例えば石鏃で側縁加工が凹凸を示すものがあり、縄文時代中期に多くみられる側縁部に鋸歯加工を施す石鏃の萌芽期を示すものか興味深い、いずれにしろ実態の解明のためには周辺遺跡等との比較検討及び各方面からの検討が必要であろう。

〔参考文献〕

1　九州縄文研究会1998　『九州縄文土器編年の諸問題』－早期後半土器編年の現状と課題－九州縄文研究会鹿児島資料集

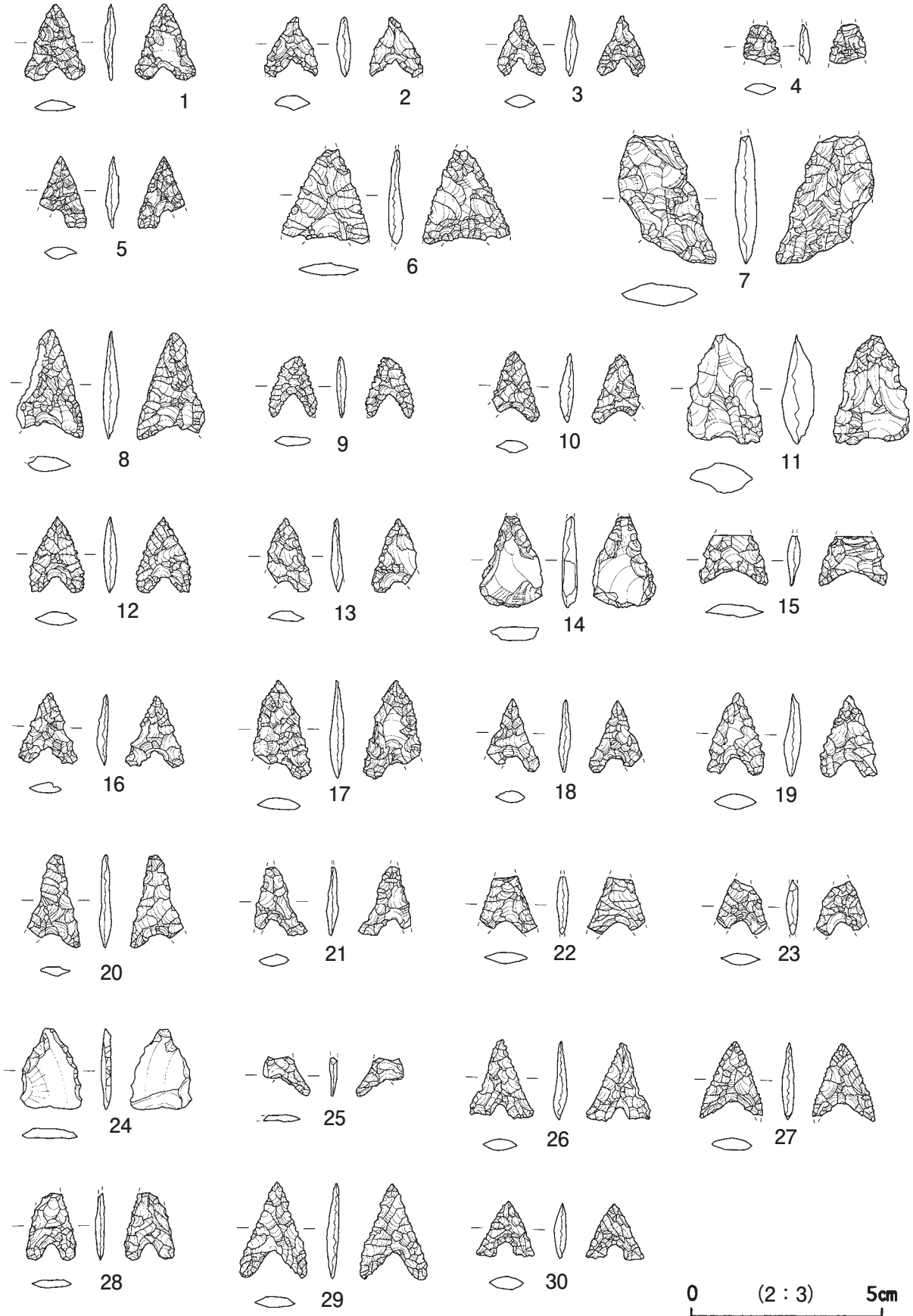
2　小林達雄編2087　『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会

3　長崎県教育委員会2002　長崎県文化財調査報告書第168集『千里ケ浜遺跡』

4　長崎県教育委員会2003　長崎県文化財調査報告書第174集『供養川遺跡』

5　長崎市教育委員会1984　『長崎市立深堀小学校校舎増築に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』

6　多良見町教育委員会・同志社大学考古学研究室編1990　『伊木力遺跡』長崎県大村湾沿岸における縄文時代低湿地遺跡の調査



第７図　出土石器①（S=2/3）

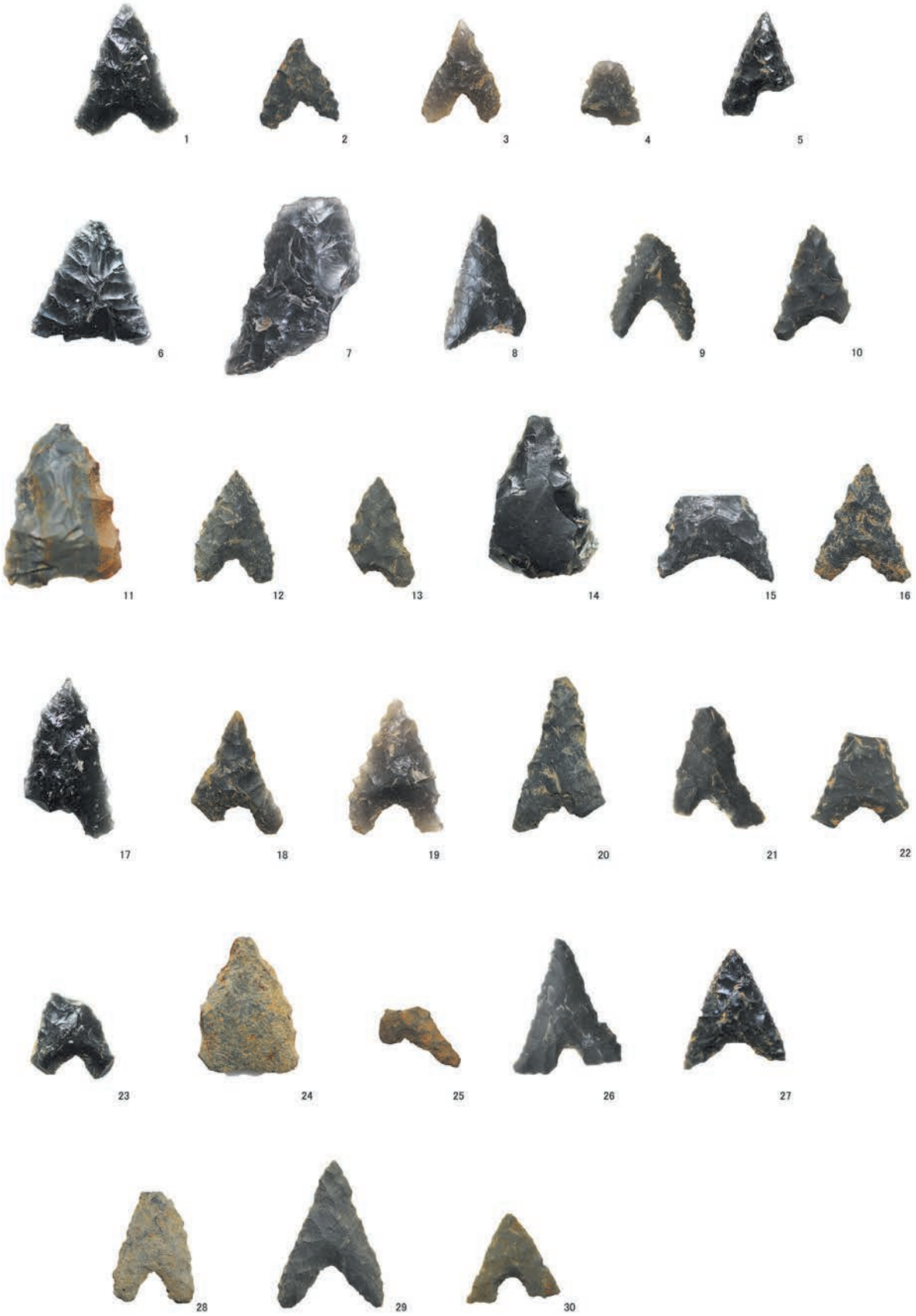
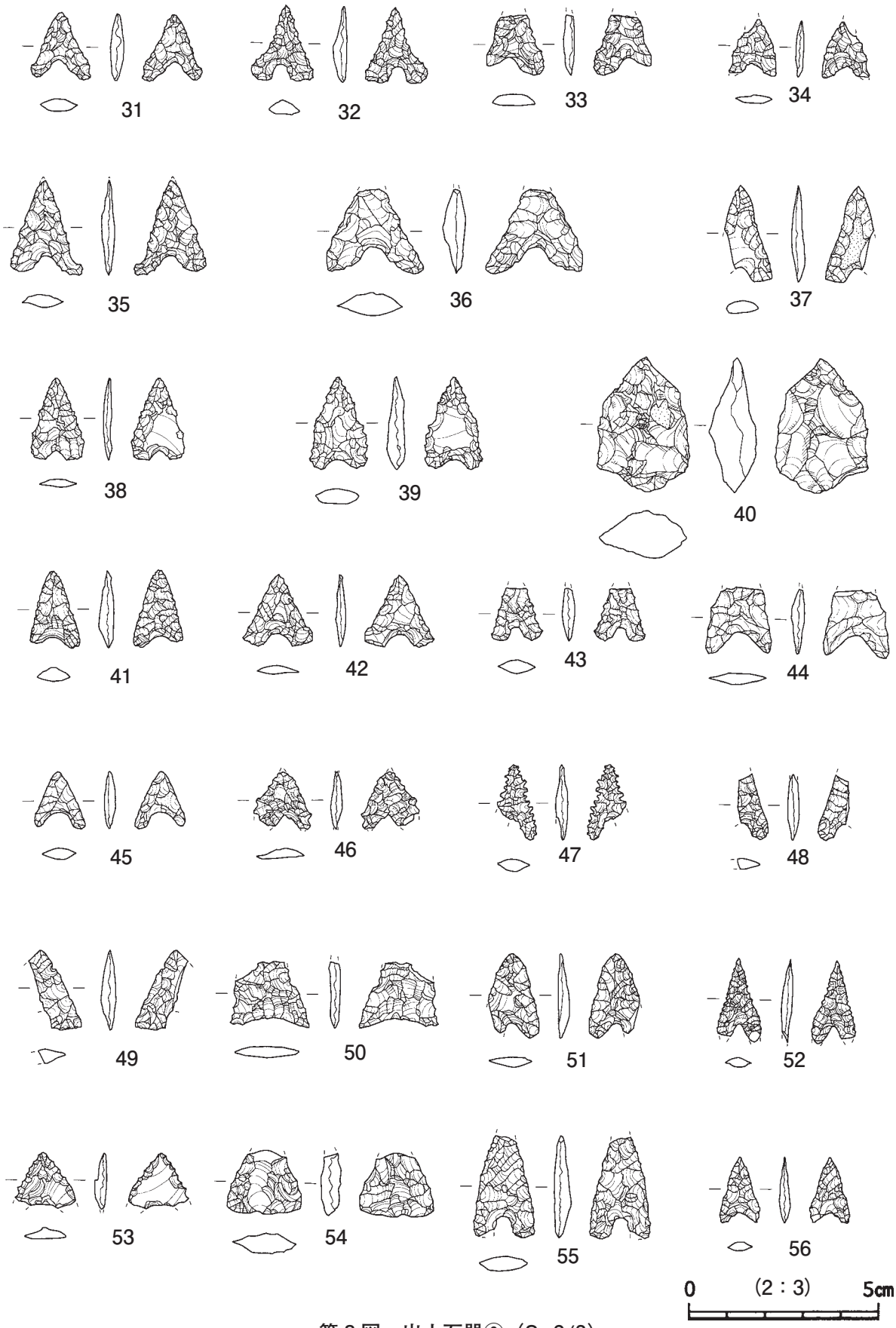

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

写真３　出土石器①



第８図　出土石器②（S=2/3）

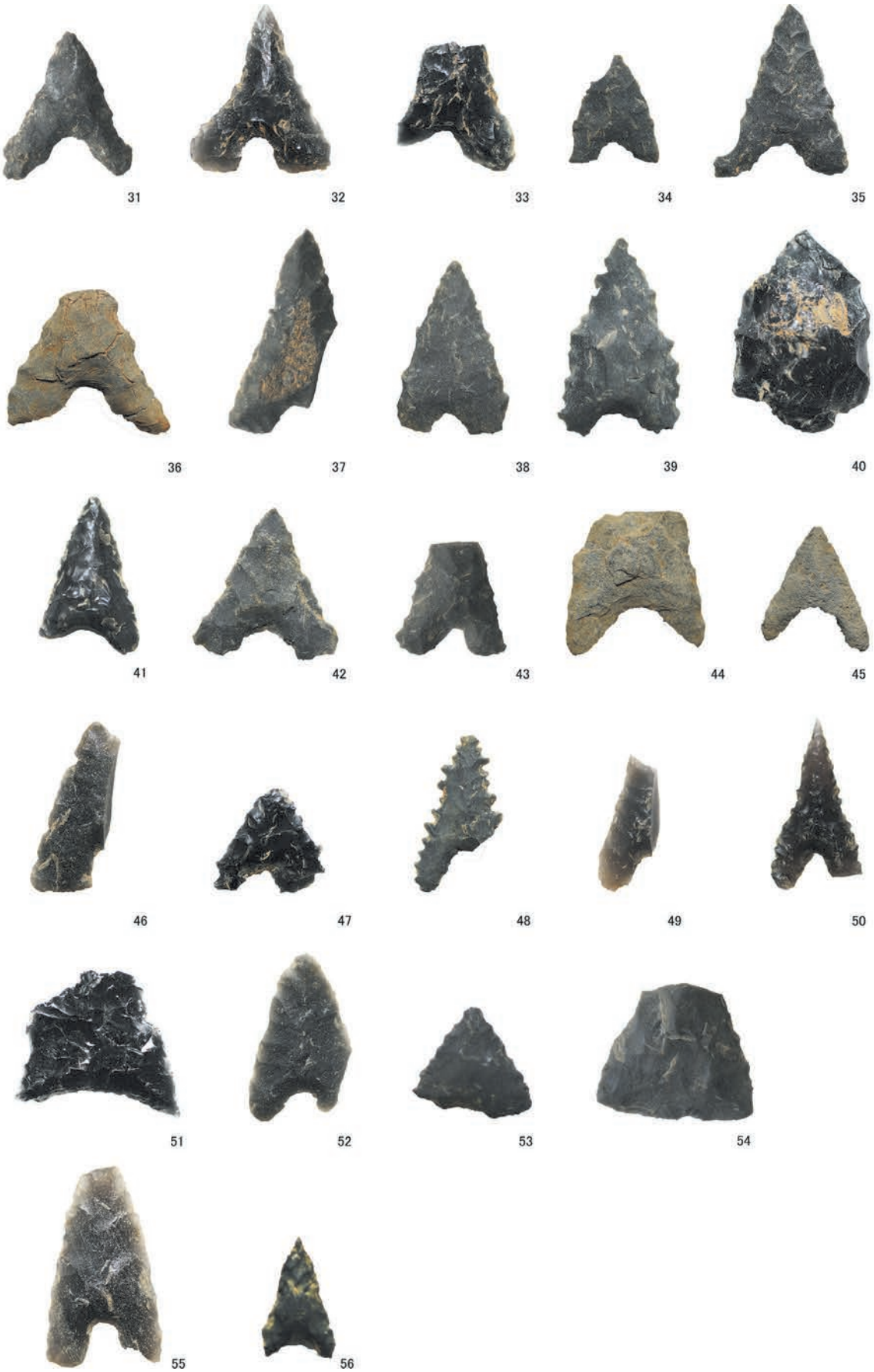
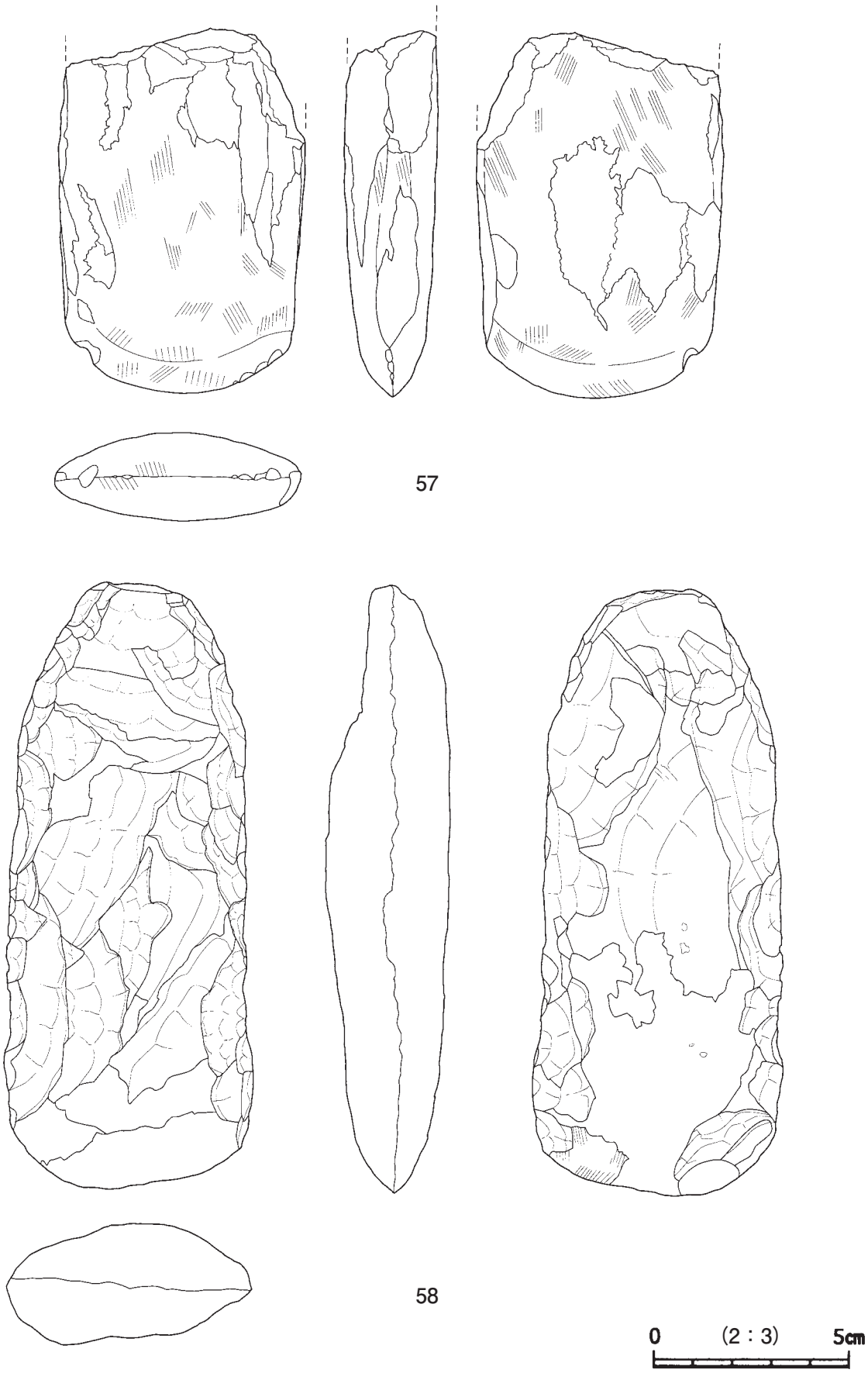

31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56

写真 4　出土石器②

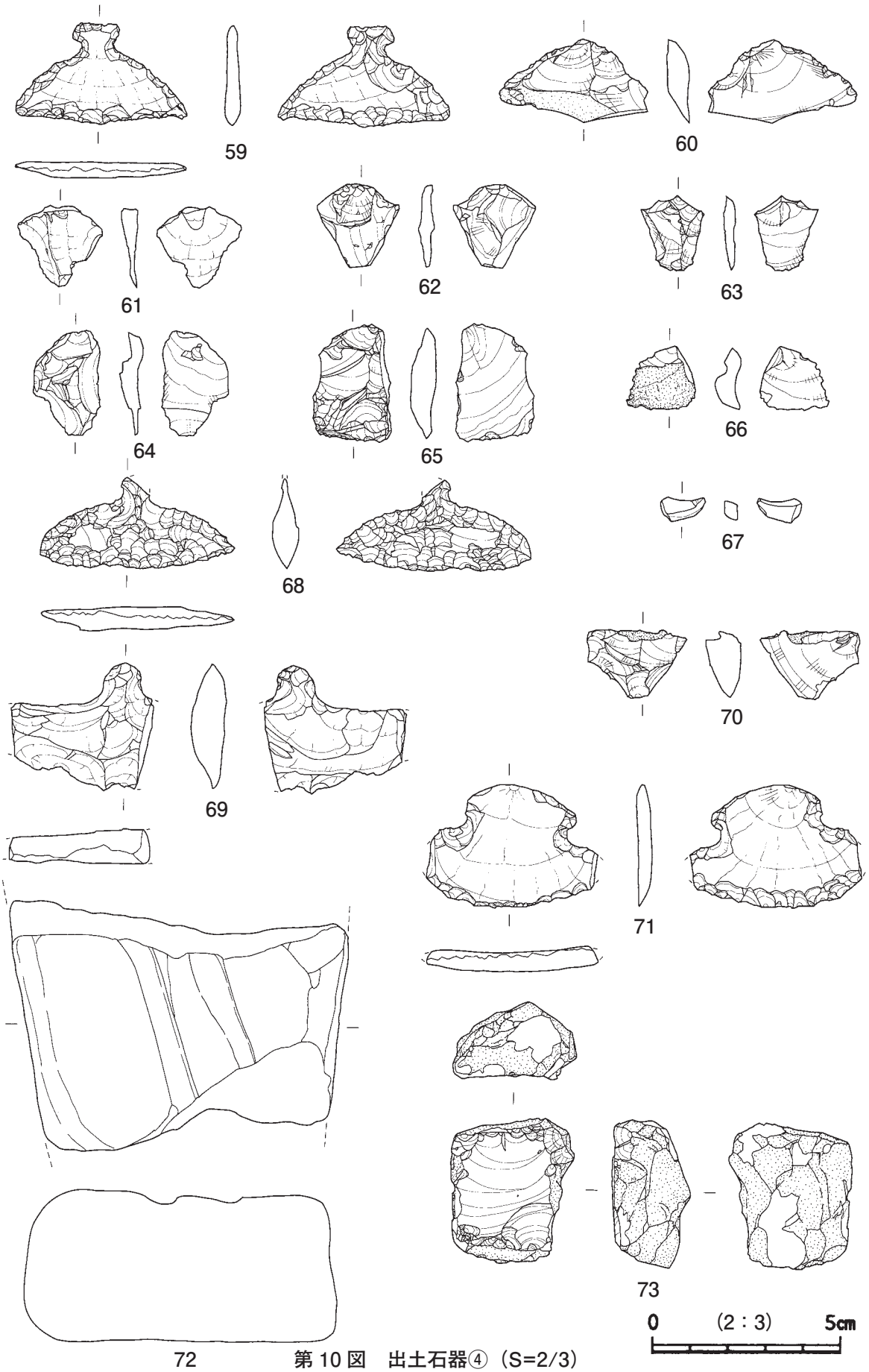


第９図　出土石器③（S=2/3）

57

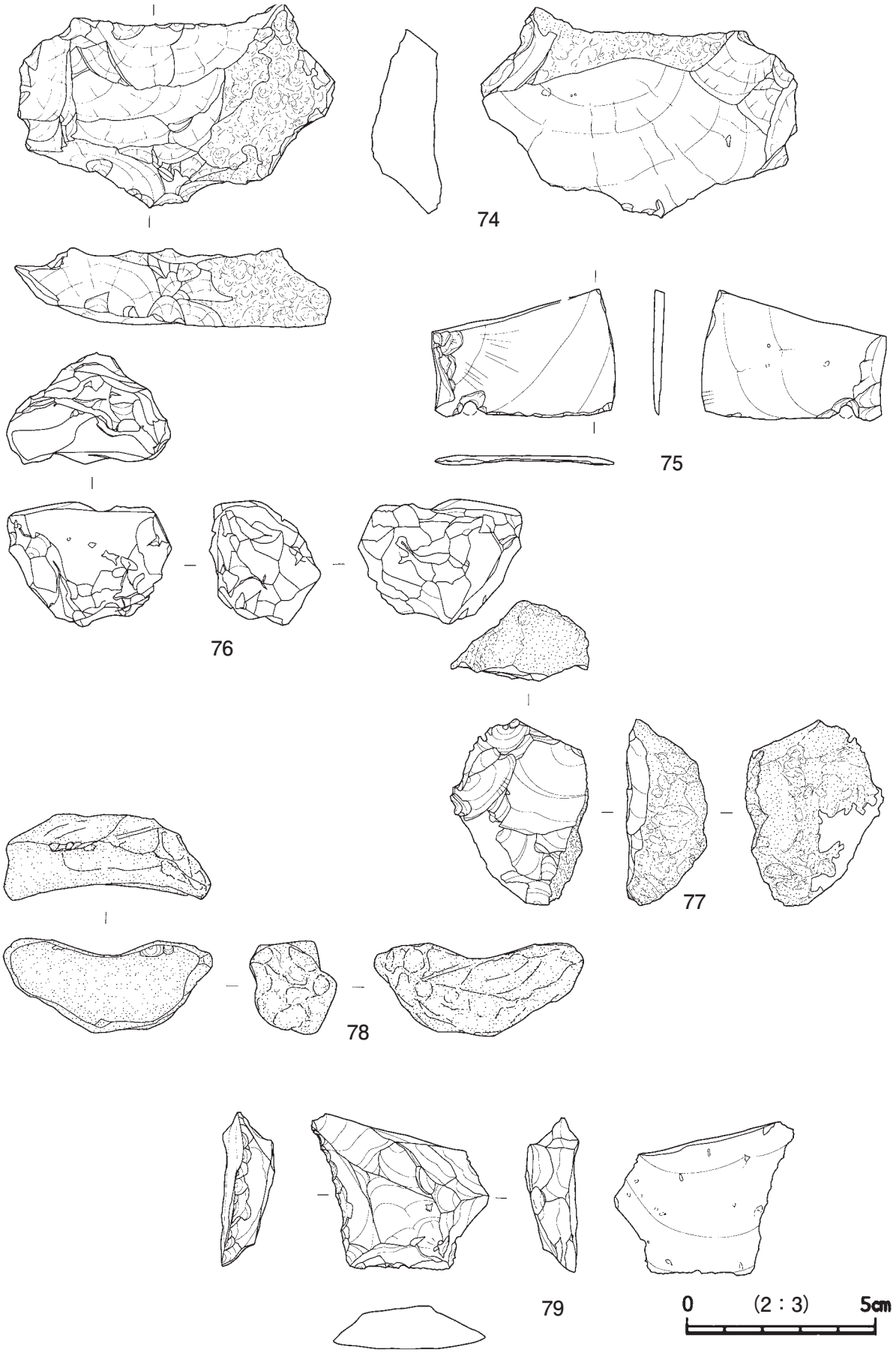
58

写真５　出土石器③



第 10 図　出土石器④（S=2/3）

写真６　出土石器④



第 11 図　出土石器⑤（S=2/3）

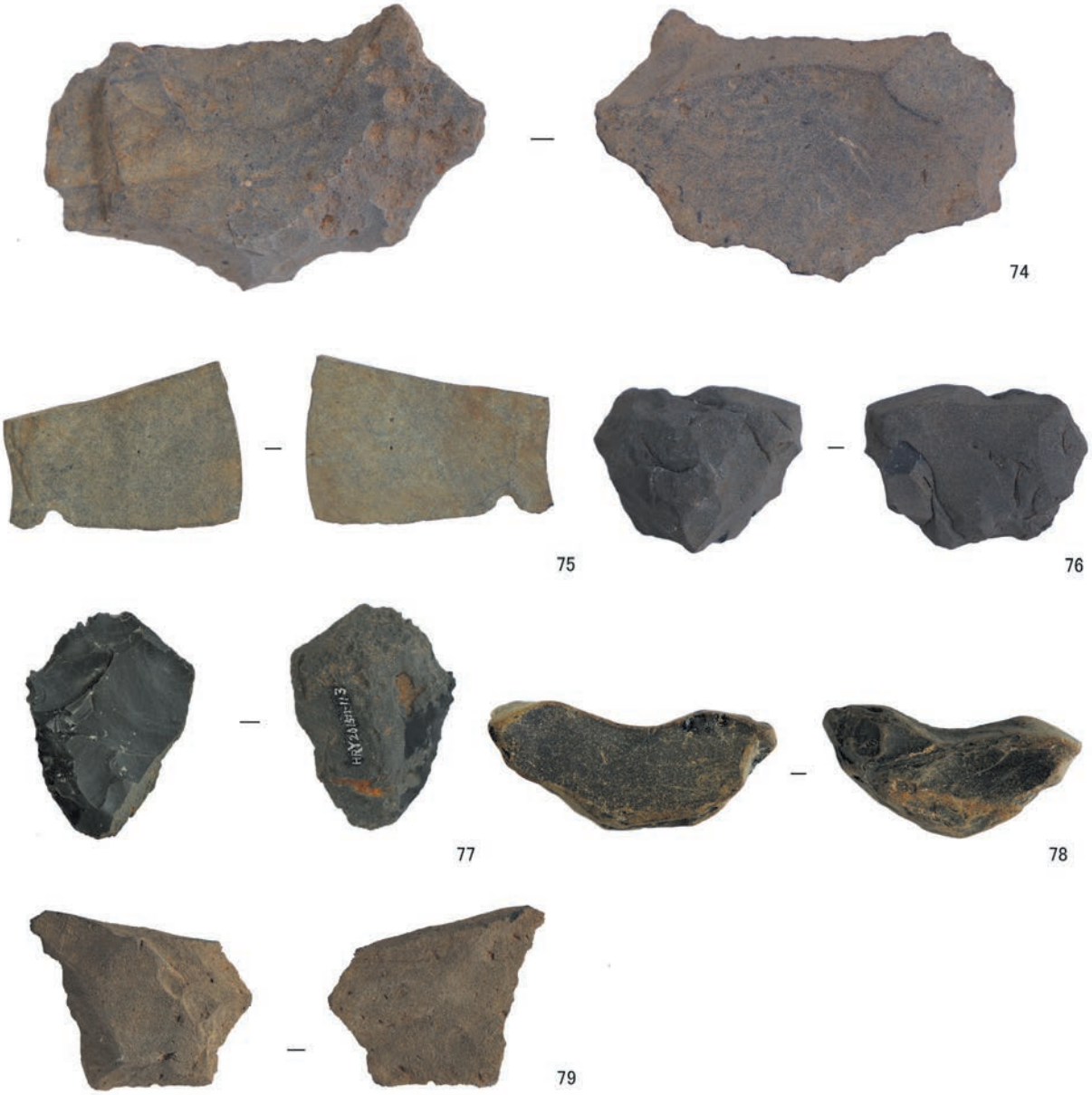


写真７　出土土器⑤

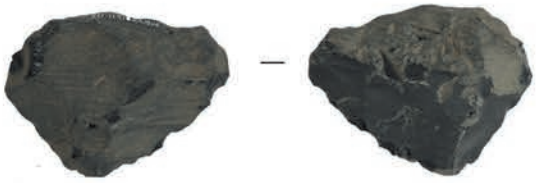
第 12 図　出土石器⑥（S=2/3）

80

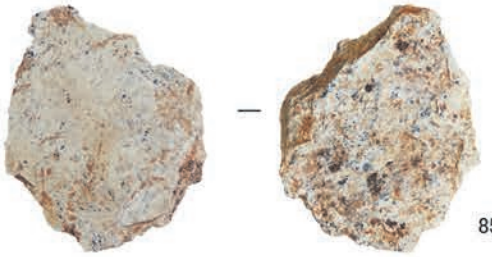
81

82

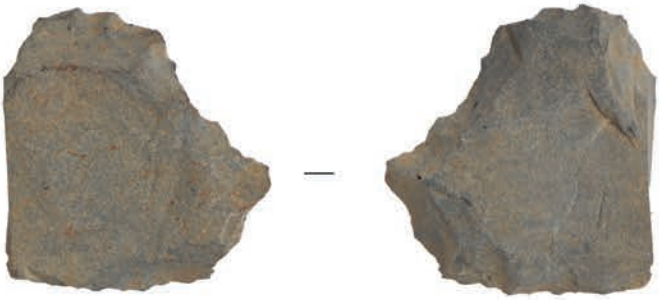
83



84

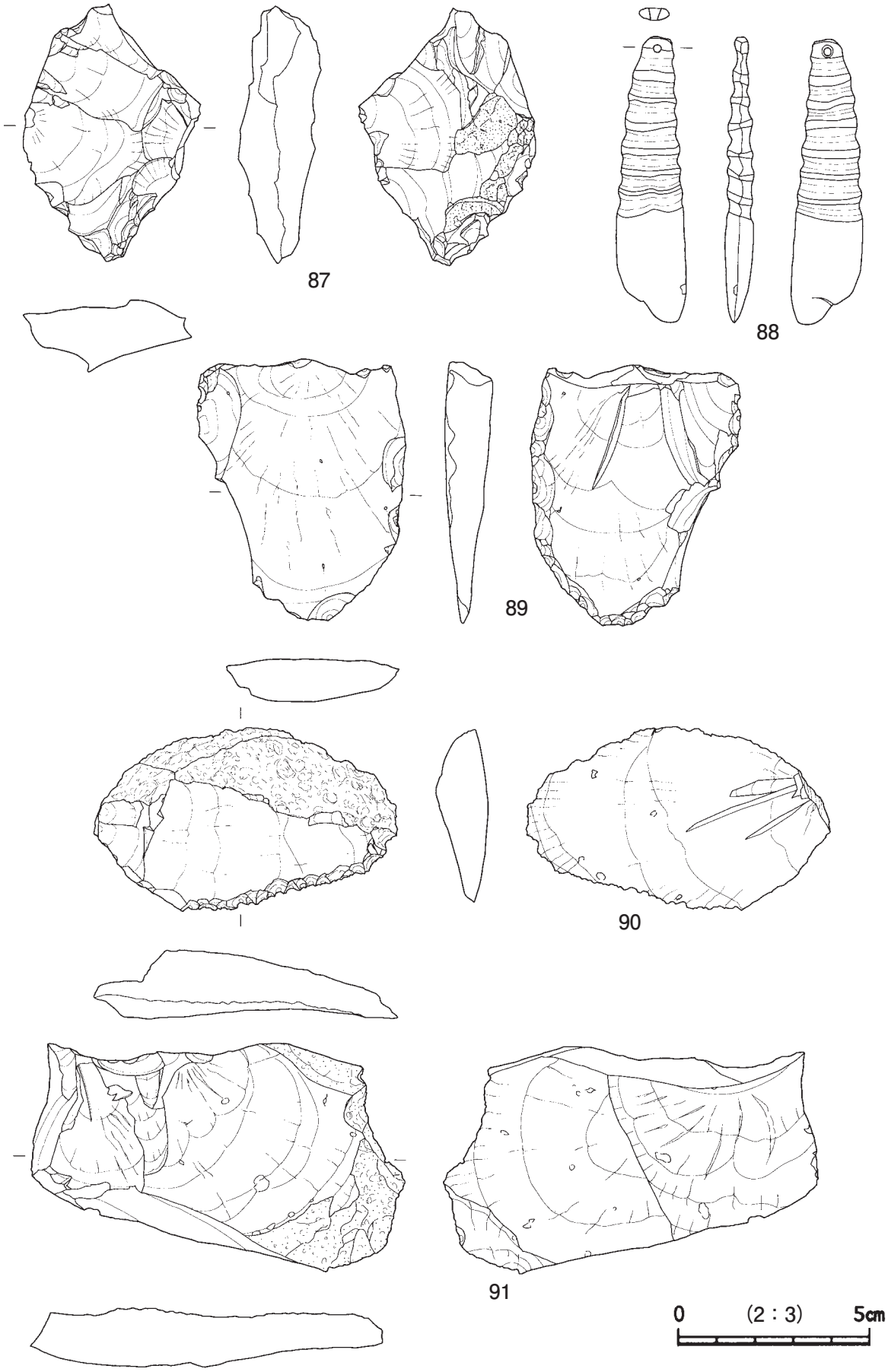


85



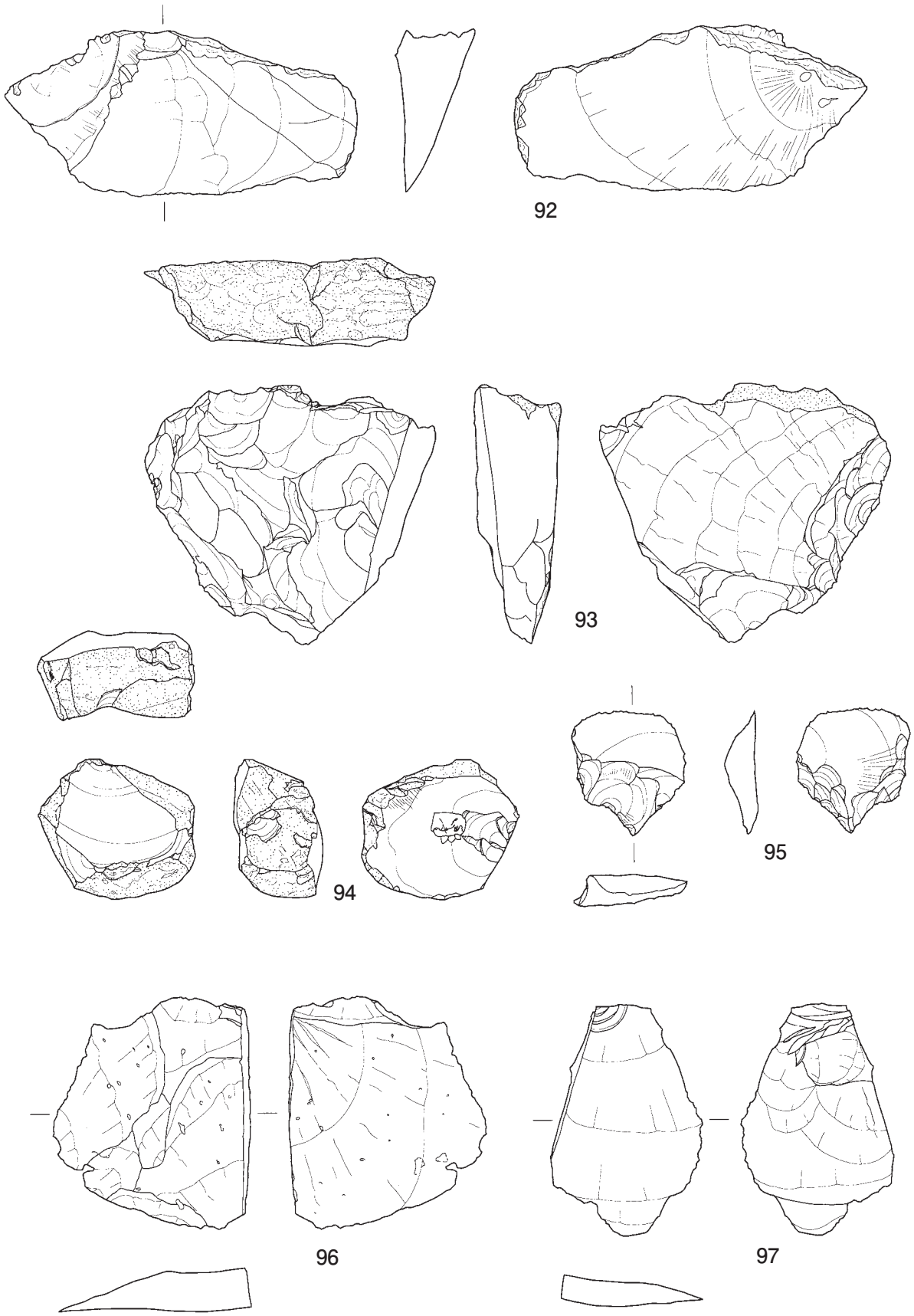
86

写真８　出土石器⑥



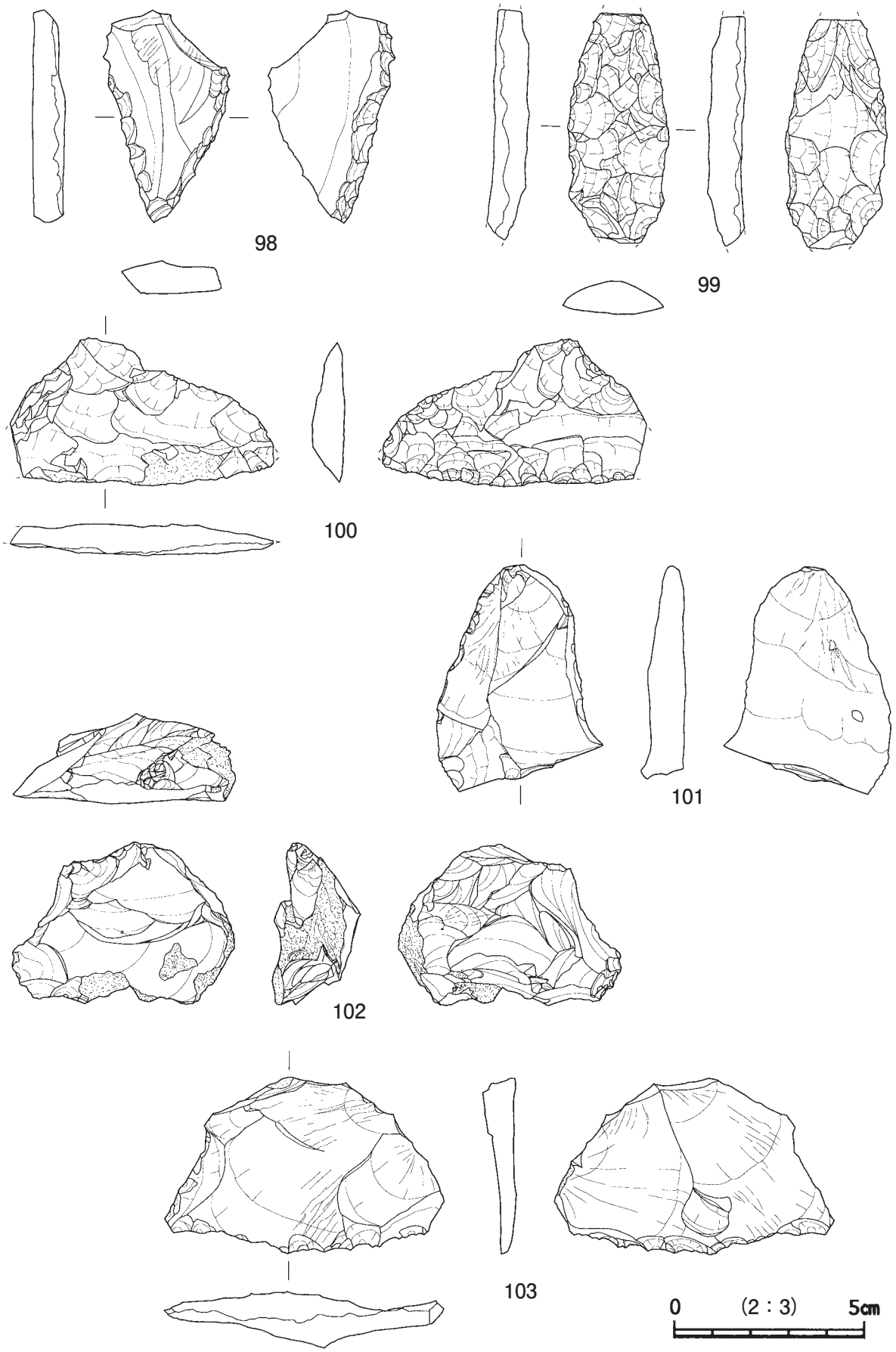
第 13 図　出土石器⑦（S=2/3）

写真９　出土石器⑦



第 14 図　出土石器⑧（S=2/3）

写真 10　出土石器⑧



第 15 図　出土石器⑨（S=2/3）

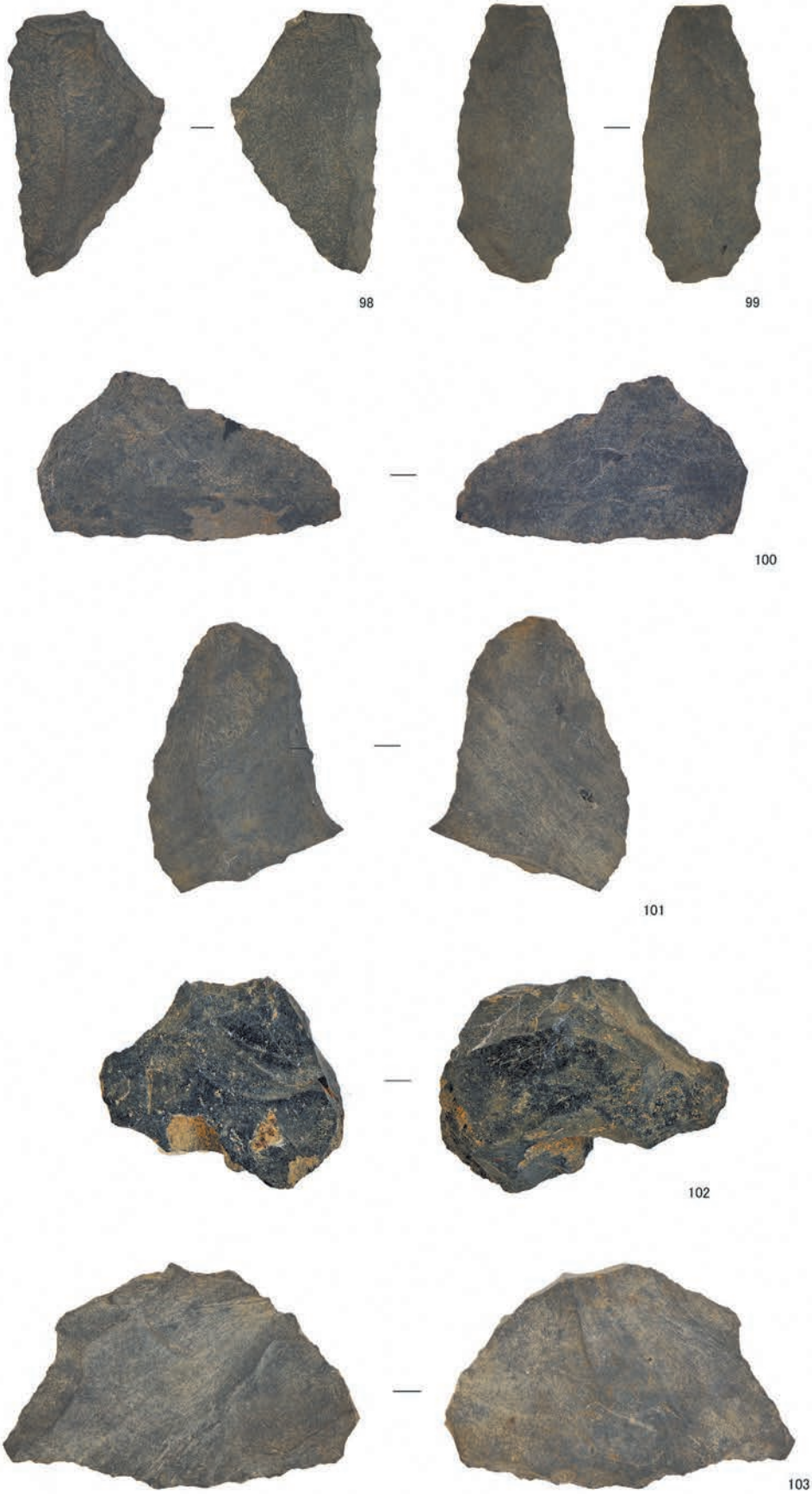
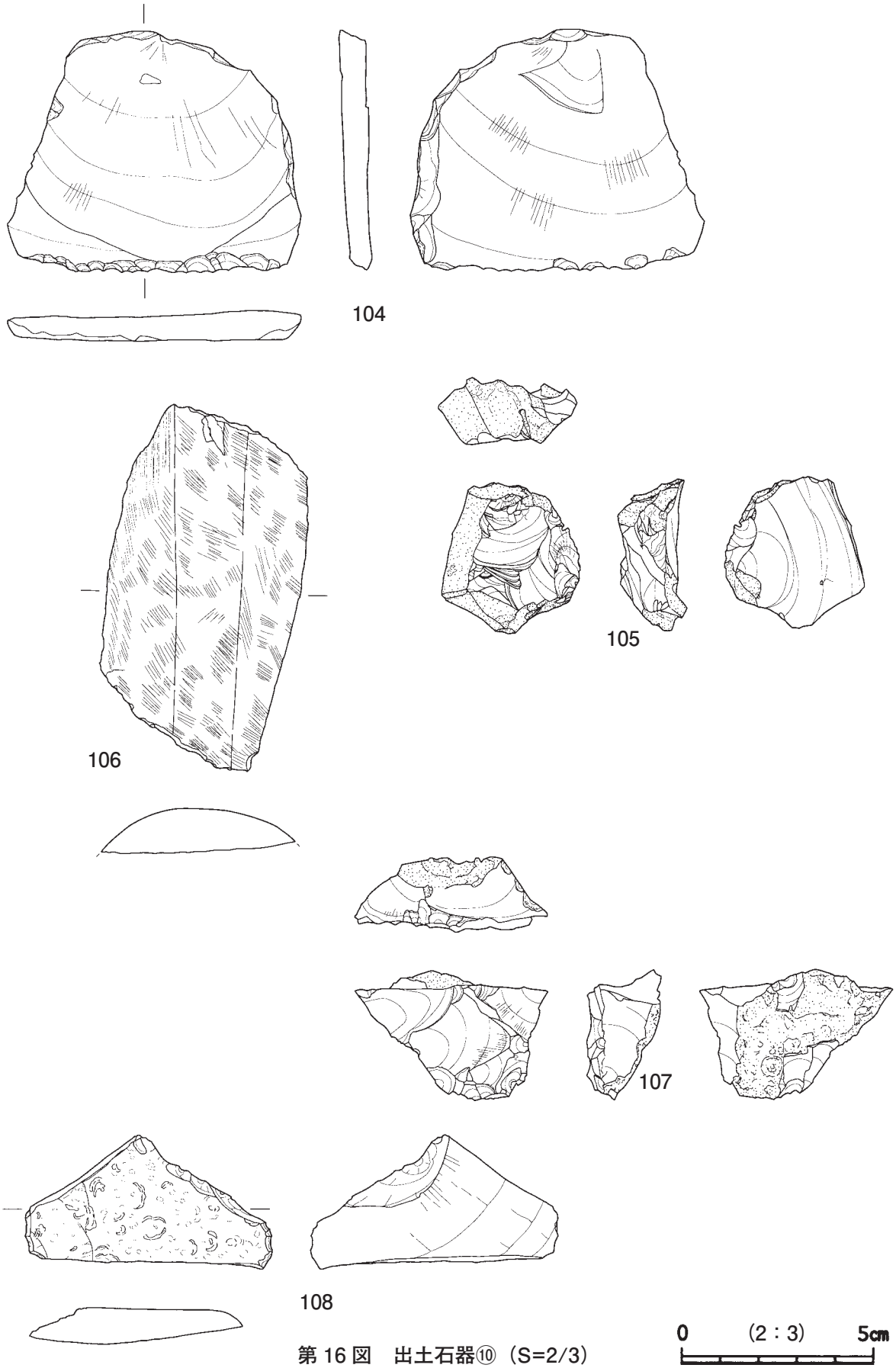
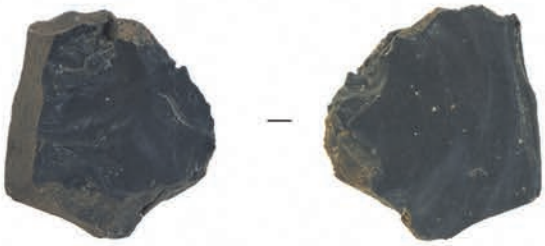


写真 11　出土石器⑨



第 16 図　出土石器⑩（S=2/3）

104



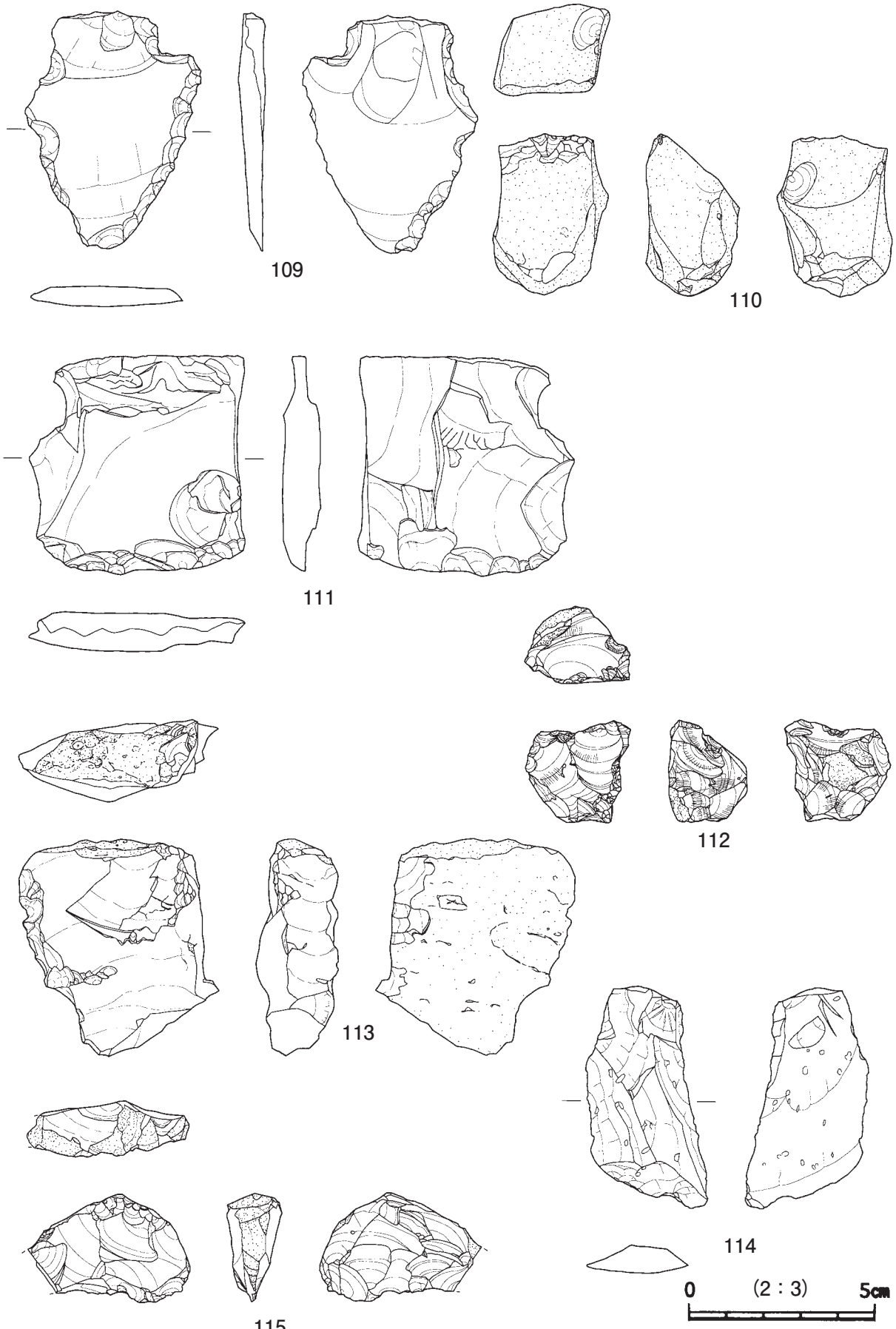
105

106

107

108

写真 12　出土石器⑩



第 17 図　出土石器⑪（S=2/3）

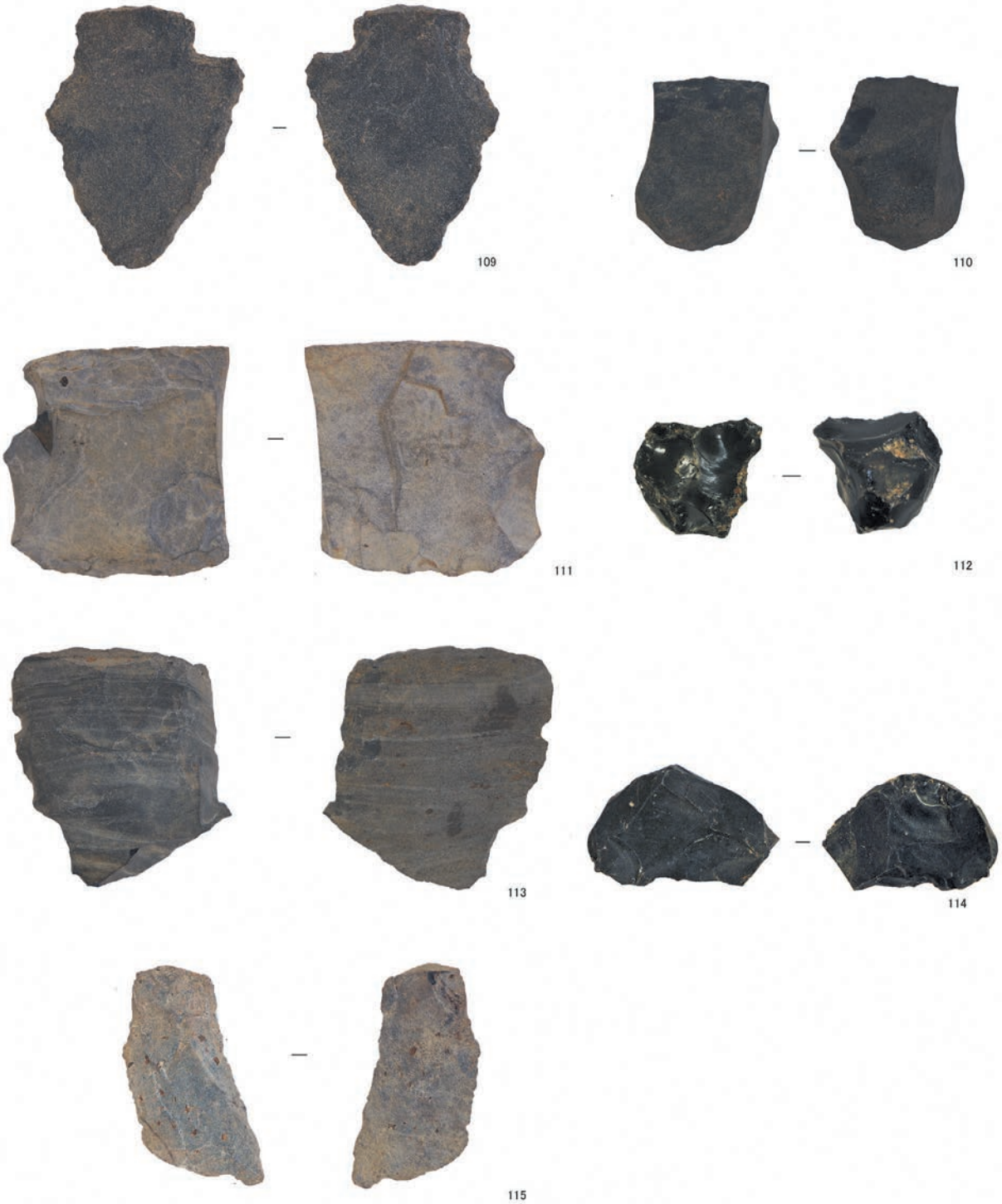
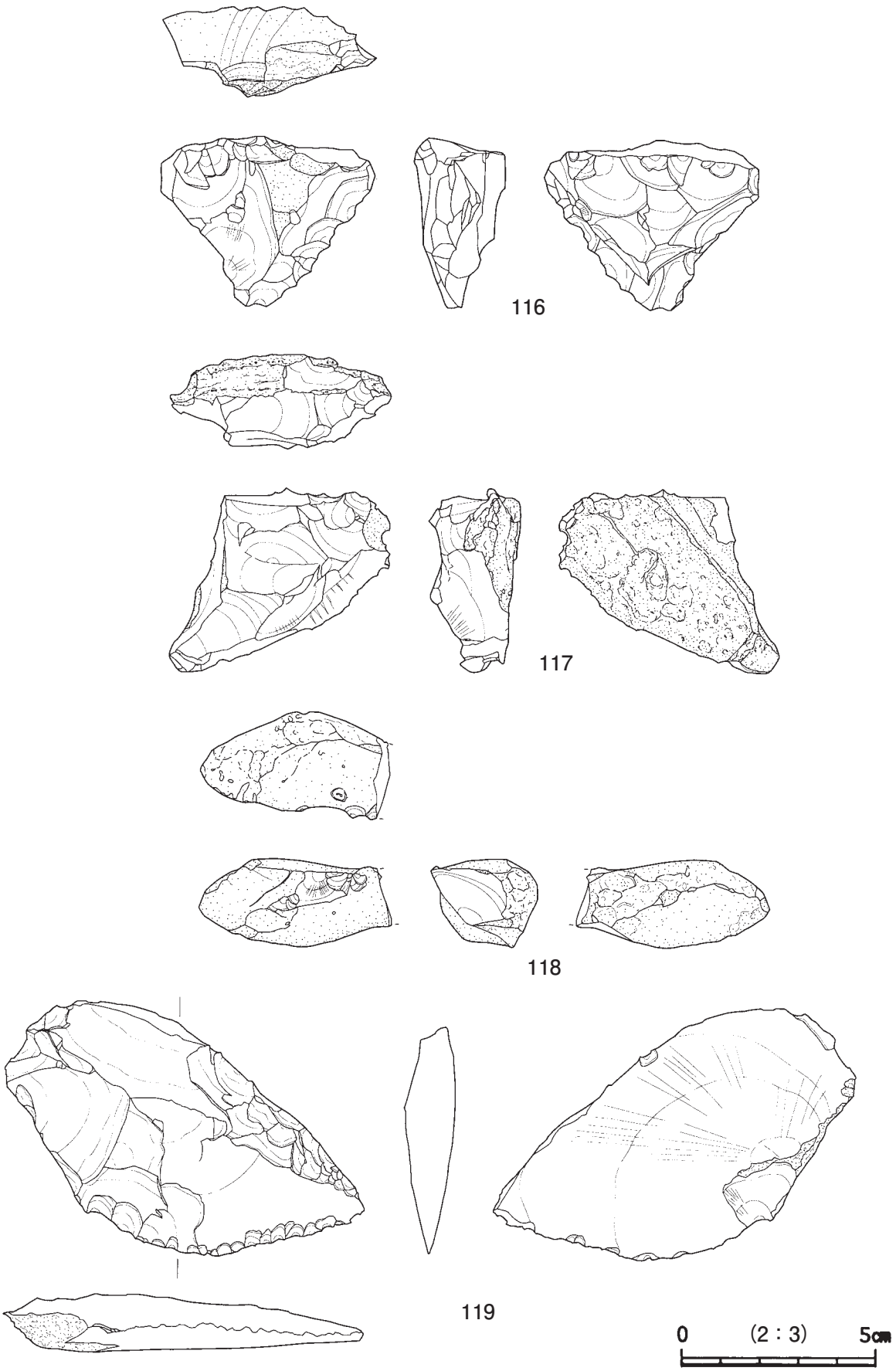
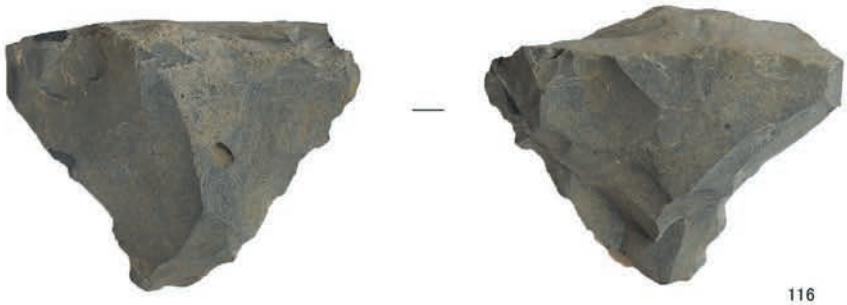


写真 13　出土石器⑪



第 18 図　出土石器⑫（S=2/3）



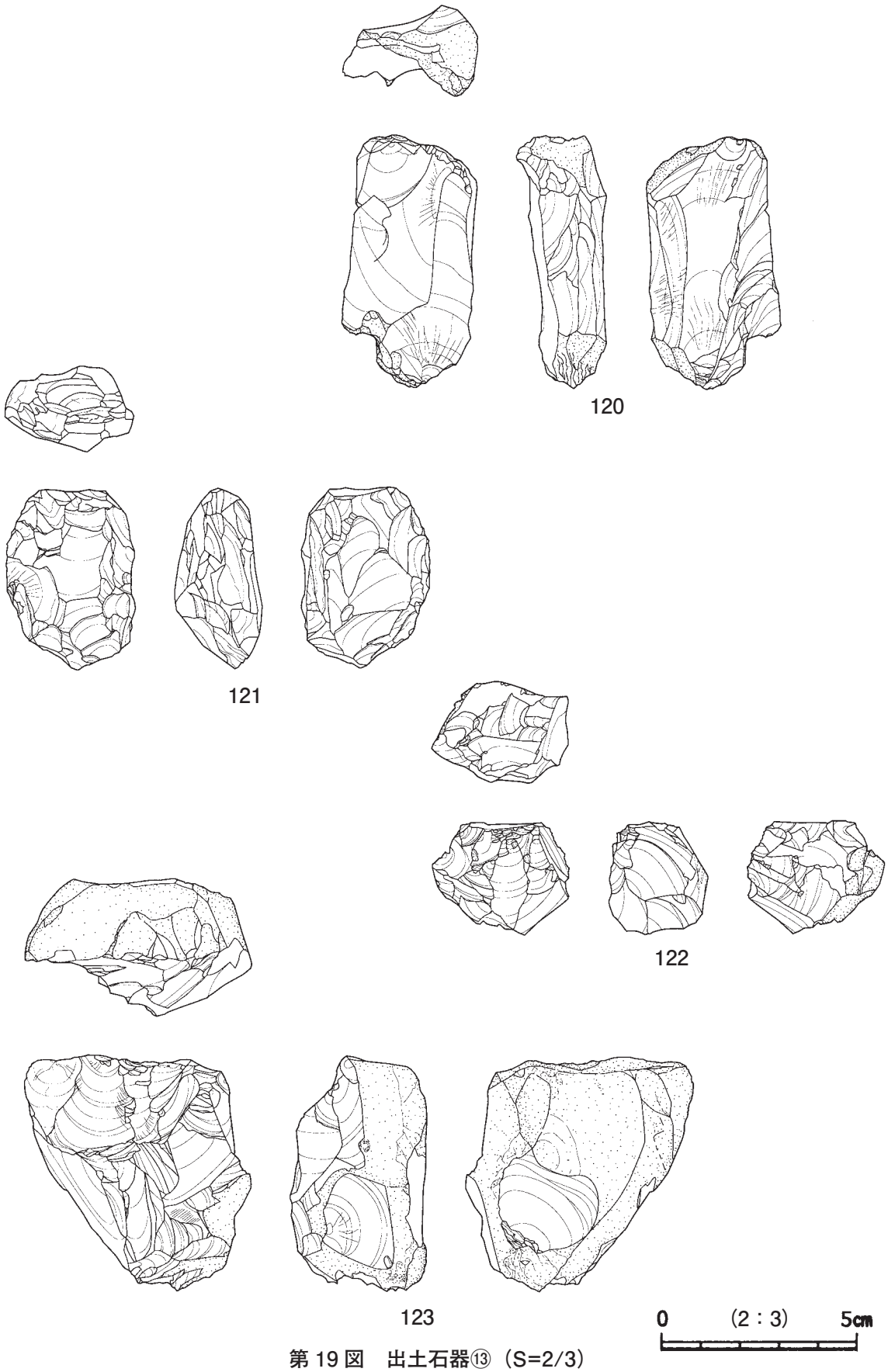
116

117

118

119

写真 14　出土石器⑫



第 19 図　出土石器⑬（S=2/3）

120

121

122

123

写真 15　出土石器⑬

第２表　石器観察表

図版番号	遺物 ID	器　種	石　種	出土地区	出土包含層	最大長（mm）	最大幅（mm）	最大厚（mm）	重量（g）	備　考
1	1112	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0876	表土剥ぎ	20	16	3	0.61	S-1 点上げ 完形
2	1042	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0876	2 層	15.5	14	3.5	0.49	ほぼ完形
3	1203	石鏃	透明な色の黒曜石	2 区 1076	2 層	16.5	12	3.5	0.41	S-3 点上げ ほぼ完形
4	1117	石鏃	透明な色の黒曜石	1 区 0878	2 層（西壁切り）	10.5	9.5	3	0.25	半分欠損
5	1041	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0876	2 層	18.5	12	3.5	0.5	片足欠損
6	110	石鏃	黒曜石	TP.1	2 層	25	23	3.5	1.6	両足先端欠
7	117	石鏃	黒曜石	TP.7	2 層	33.5	25.5	5.5	4.24	先・片足欠
8	111	石鏃	黒曜石	TP.1	2 層	28	17.5	4	1.44	片足先端欠
9	1237	石鏃	濃い色の黒曜石	3 区 1074	3 層	16	12.5	2.5	0.38	S-9 点上げ ほぼ完形
10	1120	石鏃	透明な色の黒曜石	1 区 0878	3 層	18	12.5	3.5	0.6	S-17 点上げ 片足欠損
11	1206	石鏃	薄い色の黒曜石	2 区 1076	3 層	28.5	20	8	4.12	S-8 点上げ 完形
12	1048	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0876	3 層	20	14	3.5	0.73	S-12 点上げ 完形
13	1049	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0876	3 層	19	12	3	0.48	S-13 点上げ 片足欠損
14	1250	石鏃未製品	濃い色の黒曜石	3 区 1076	3 層	28.5	17	4	1.77	―
15	1052	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0876	3 層	13	18	3	0.67	頭部欠損
16	1060	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0876	4a 層上層	18.5	15	3	0.46	S-22 点上げ ほぼ完形
17	1126	石鏃	透明な色の黒曜石	1 区 0878	4a 層上層	26	15	3.5	0.97	片足欠損
18	1137	石鏃	透明な色の黒曜石	1 区 0878	4a 層下層	19	13.5	3	0.52	S-49 点上げ 片足欠損
19	1138	石鏃	透明な色の黒曜石	1 区 0878	4a 層下層	21.5	15	4.5	0.95	S-57 点上げ ほぼ完形
20	1143	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0878	4a 層下層	24	14	3	0.64	S-62 点上げ 片足欠損
21	1139	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0878	4a 層下層	18	13.5	3	0.46	S-58 点上げ 片足欠損
22	1144	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0878	4a 層下層	15	15	3	0.55	頭部欠損
23	1141	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0878	4a 層下層	14	13	3	0.48	S-60 点上げ 頭部欠損
24	1270	石鏃	安山岩	1 区 0878	4a 層下層	21	16	2.5	1.09	ID1145 から抜き出し 完形
25	1140	石鏃	安山岩	1 区 0878	4a 層下層	10	12.5	2	0.19	S-59 点上げ 半分欠損
26	1006	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0678	4a 層（北側）	20.5	17	3.5	0.64	S-50 点上げ 完形
27	1007	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0678	4a 層（北側）	20	16	3	0.61	S-54 点上げ ほぼ完形
28	1093	石鏃	安山岩	1 区 0876	4a 層下層	17.5	13	2.5	0.6	S-53 点上げ 頭部欠損
29	1128	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0878	4a 層	25	17.5	3	0.89	S-26 点上げ 完形
30	1008	石鏃	安山岩	1 区 0678	4a 層（北側）	14.5	15	3	0.39	S-56 点上げ 完形
31	1131	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0878	4a 層	17.5	16	3.5	0.62	S-34 点上げ 完形
32	1073	石鏃	透明な色の黒曜石	1 区 0876	4.a 層	20	16	3.5	0.66	S-38 点上げ ほぼ完形
33	1132	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0878	4a 層	15.5	15	3	0.58	S-71 点上げ 頭部欠損
34	1091	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0876	4a 層下層	15	12	2	0.34	S-51 点上げ ほぼ完形
35	1068	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0876	4.a 層	25	19	3.5	0.94	S-29 点上げ ほぼ完形
36	1090	石鏃	安山岩	1 区 0876	4a 層下層	22	25	6	1.49	S-46 点上げ 頭部欠損
37	1009	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0678	4a 層	25	13	3.5	0.75	S-63 点上げ 片足欠損
38	1152	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0878	5a 層	21.5	14	2.5	0.61	S-77 点上げ ほぼ完形
39	1154	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0878	5a 層	24.5	15	4.5	1.38	S-80 点上げ 完形
40	1069	石鏃未製品	濃い色の黒曜石	1 区 0876	4.a 層	35	24	12.5	8	S-30 点上げ
41	1103	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0876	5a 層	20	13	4	0.83	S-79 点上げ 完形
42	1150	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0878	5a 層	19	18.5	3	0.62	S-67 点上げ ほぼ完形
43	1101	石鏃	安山岩	1 区 0876	5a 層	14	13.5	3.5	0.47	S-65 点上げ 頭部欠損
44	1151	石鏃	安山岩	1 区 0878	5a 層	17	17	3.5	0.76	S-68 点上げ 頭部欠損
45	1155	石鏃	安山岩	1 区 0878	5a 層	15	13.5	3	0.37	S-83 点上げ 完形
46	1016	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0678	5a 層	15	15	3	0.54	S-76 点上げ ほぼ完形
47	1153	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0878	5a 層	19.5	10	3	0.4	S-78 点上げ 片足欠損
48	1272	石鏃	黒曜石	1 区 0878	5a 層	16.5	8	3	0.35	ID1777 から抜き出し 半欠
49	1271	石鏃	黒曜石	1 区 0878	5a 層	21	6.5	4	0.56	ID1777 から抜き出し 半欠
50	1159	石鏃？	濃い色の黒曜石	1 区 0878	5a 層	17.5	21	3	1.1	半分欠損？
51	1024	石鏃	透明な色の黒曜石	1 区 0678	5b 層（北側）	22.5	13.5	3	0.66	ほぼ完形
52	1020	石鏃	透明な色の黒曜石	1 区 0678	5b 層	22	11.5	3	0.48	S-75 点上げ ほぼ完形
53	1023	石鏃	濃い色の黒曜石	1 区 0678	5b 層（北側）	14.5	15.5	3	0.44	両足欠損？
54	1018	石鏃	薄い色の黒曜石	1 区 0678	5b 層	16.5	19.5	5	1.48	S-73 点上げ 頭部欠損
55	1173	石鏃	透明な色の黒曜石	1 区 0878	5b 層	27	15.5	4	1.52	S-84 点上げ 頭部欠損
56	1219	石鏃	薄い色の黒曜石	2 区 1076	5 層	17.5	11.5	3	0.36	S-33 点上げ ほぼ完形
57	120	石斧	蛇紋岩	表採	―	92.5	63	23	195	―
58	121	石斧	安山岩	表採	―	154	64	32	395	―
59	1264	石匙	安山岩	3 区 1076	トレンチ掘削	26.5	45	4	4.41	S-5点上げ 完形
60	102	使用痕ある剥片	黒曜石	TP.2	S3	22.5	39	6	3.82	―
61	105	剥片	黒曜石	TP.7	S1	21	22	4	1.41	―
62	101	剥片	黒曜石	TP.2	S1	22	22	4	1.89	―

図版番号	遺物 ID	器　種	石　種	出土地区	出土包含層	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備　考
63	107	剥片	黒曜石	TP.7	S3	19.5	17	3	0.96	—
64	108	砕片	不明	TP.7	S4	6.5	12	3.5	0.25	—
65	104	剥片	黒曜石	TP.2	S5	30	20	7	29.02	—
66	106	剥片	黒曜石	TP.7	S2	18	18.5	7.5	1.54	—
67	108	砕片	黒曜石	TP.7	S4	7	12	4	0.26	—
68	1189	石匙	薄い色の黒曜石	2 区 0876	2 層	24	51	6.5	5.79	S-4 点上げ
69	1229	石匙	安山岩	2 区 1076	トレンチ掘削	28.5	37.5	9	10.81	半分欠損
70	103	剥片	黒曜石	TP.2	S4	18	26.5	9	3.4	—
71	1005	石匙	安山岩	1 区 0678	3 層（4 層との境）	33	44.5	6	8.31	S-16点上げ
72	1186	矢柄研磨器	砂岩	1 区０８７８	トレンチ掘削	66	89	40	335	—
73	119	コア	黒曜石	表採	—	39	37.5	20.5	29.07	—
74	1019	スクレイパー	安山岩	1 区 0678	5b 層	55	83.5	16.5	83.69	S-74 点上げ
75	1274	スクレイパー（横型）	安山岩	1 区 0876	3 層	33.5	48.5	3	7.07	ID1055から抜き出し
76	1249	コア	薄い色の黒曜石	3 区 1076	3 層	33	43.5	27	40.9	—
77	113	コア	黒曜石	TP.1	3 層	49	36	21	33.68	—
78	1054	コア	薄い色の黒曜石	1 区 0876	3 層	25	56	23	29.19	—
79	1208	スクレイパー？	安山岩	2 区 1076	3 層土層ベルト（E-W）	42.5	49	12	24.24	—
80	1239	スクレイパー	安山岩	3 区 1074	3 層	51.5	69	9.5	36.97	S-11点上げ
81	114	スクレイパー	黒曜石	TP.3	3 層	29.5	55.5	10.5	22.56	—
82	115	コア	黒曜石	TP.3	3 層	38	31	29.5	36.26	—
83	1051	スクレイパー	安山岩	1 区 0876	3 層	38.5	80	5	15.1	—
84	112	コア	黒曜石	TP.1	2 層	32	43.5	24	36.08	—
85	1215	石斧	蛇紋岩	2 区 1076	4 層	44.5	42.5	7.5	14.74	S-18 点上げ
86	1062	スクレイパー	安山岩	1 区 0876	4a 層上層	52	50	9.5	27.95	—
87	1076	スクレイパー	安山岩	1 区 0876	4.a 層	67	46	16.5	43.4	S-41 点上げ
88	77	石製装身具	石灰岩	1 区 0876	4.a 層	74	20	7	9.71	—
89	1077	二次加工剥片	安山岩	1 区 0876	4.a 層	68	54.5	11	46.64	S-42 点上げ
90	1070	スクレイパー	安山岩	1 区 0876	4.a 層	48	79	13	49.41	S-35点上げ
91	1072	剥片	安山岩	1 区 0876	4.a 層	59.5	97	17	104.39	S-37点上げ
92	1010	二次加工有り？剥片	安山岩	1 区 0678	4a 層	43	90.5	18	55.68	S-66 点上げ
93	1071	石核	安山岩？	1 区 0876	4.a 層	67	75	22.5	119.28	S-36 点上げ
94	1067	石核	薄い色の黒曜石	1 区 0876	4.a 層	36.5	40.5	23.5	40.14	S-25 点上げ
95	1273	スクレイパー	黒曜石	1 区 0876	4a 層	32	29	8	6.34	ID1083 から抜き出し
96	1129	二次加工剥片	安山岩	1 区 0878	4a 層	60	51	11	38.68	S-27 点上げ
97	1078	使用痕ある剥片	安山岩	1 区 0876	4.a 層	60	39	8	17.25	—
98	1079	二次加工剥片	安山岩	1 区 0876	4.a 層	55.5	33	8.5	16.16	—
99	1088	槍・漁労具先端部欠損	安山岩	1 区 0876	4a 層下層	60	26.5	8.5	18.88	S-44点上げ
100	1125	石匙未製品	安山岩	1 区 0878	4a 層上層	39	69	8.5	21.26	S-20 点上げ
101	1135	二次加工剥片	安山岩	1 区 0878	4a 層下層	59.5	43.5	11	27.44	S-47点上げ
102	1087	石核	薄い色の黒曜石	1 区 0876	4a 層下層	42	58	23	51.44	S-43 点上げ
103	1136	サイドスクレイパー	安山岩	1 区 0878	4a 層下層	46	73	8.5	27.72	S-48 点上げ
104	1089	スクレイパー	安山岩	1 区 0876	4a 層下層	62.5	76	7	49.46	S-45 点上げ
105	1095	石核	薄い色の黒曜石	1 区 0876	4a 層下層	39	36	15.5	18.41	—
105	104	剥片	黒曜石	TP.2	S5	31.5	20.5	7	5.3	—
106	1217	石斧	安山岩	2 区 1076	5 層	94.5	53	11.5	72.96	S-21 点上げ 根元欠損
106	61	剥片	安山岩	TP.7	S1	21.5	22.5	4.5	1.41	—
107	1197	石核	薄い色の黒曜石	2 区 0876	5 層	34	49.5	19	23.54	S-31点上げ
108	1218	二次加工剥片	安山岩	2 区 1076	5 層	34	64.5	9.5	22.03	S-32点上げ
109	1104	石匙	薄い色の黒曜石	1 区 0876	5a 層	63.5	47	7	23.48	S-81点上げ
110	1100	石核	薄い色の黒曜石	1 区 0876	5a 層	43.5	30.5	24.5	38.2	S-64点上げ
110	109	剥片	黒曜石	TP.7	S5	28	17.5	4.5	2	—
111	1102	二次加工剥片	安山岩	1 区 0876	5a 層	58.5	57.5	11.5	44.52	S-70点上げ
112	1021	石核	濃い色の黒曜石	1 区 0678	5b 層	27.5	28.5	21	14.81	—
113	1161	石核	安山岩	1 区 0878	5a 層	58	53	22	61.99	—
114	1022	使用痕ある剥片	安山岩	1 区 0678	5b 層	59	33	7	12.99	—
115	1162	石核	濃い色の黒曜石	1 区 0878	5a 層	29	43.5	14.5	15.25	—
116	1227	石核	安山岩	2 区 1076	トレンチ掘削	43.5	55	23	43.52	—
117	1243	石核	濃い色の黒曜石	3 区 1076	2 層	47	56.5	24	47.26	S-2 点上げ
118	1011	石核	薄い色の黒曜石	1 区 0678	4a 層（北側）	22.5	49	24.5	28.18	—
119	116	スクレイパー	安山岩	TP.3	6 層	65	92	15	68.86	—
120	1130	石核	薄い色の黒曜石	1 区 0878	4a 層	64.5	34	19	40.41	S-28 点上げ
121	1092	石核	安山岩	1 区 0876	4a 層下層	46	33	22.5	36.82	S-52 点上げ
122	1177	石核	薄い色の黒曜石	1 区 0878	表採	29	35	25	26.04	—
123	1040	石核	濃い色の黒曜石	1 区 0876	2 層	60	58	34	116.08	S-6 点上げ

Ⅳ　まとめ

今回の調査では、調査区に時期の異なる複数の遺物包含層が存在していることを確認することができた。第Ⅰ層～第Ⅲ層までは近世以降の人為的行為によるもので、第Ⅳ層と第Ⅴ層が縄文時代の遺物包含層となる。また、歴史的環境の項で述べたとおり、調査地である一里松遺跡周辺には縄文時代の遺跡が多く確認されており、今回の調査結果はこの地域一帯の縄文時代の人類活動圏内における、新たな知見を追認するものと理解できる。

第Ⅳ層の年代は、縄文時代早期末、前期、中期初頭、後期初頭の遺物を包含していることから縄文時代後期初頭となる。土器の各型式について概観すると、早期末の塞ノ神式から前期の轟Ｂ式・西唐津式・曽畑式、中期初頭の船元式に該当する土器がみられるが、阿高式土器の出土は確認できなかった。また、縁帯文系土器に該当する土器は見られるが、後続する西平式土器などの磨消縄文系土器以降の土器は確認できない。このことから第Ⅳ層は坂の下式に該当する縄文時代後期初頭の時期に堆積したもので、その際に早期末から中期初頭の土器が流れ込みなどによって混入したものと推察される。また、同様器形・文様での出土例を確認できない坂の下式と思われる鉢や、出土例の稀な石製装身具などが出土していることが特徴として挙げられる。第Ⅴ層の年代は、縄文時代早期、前期の遺物が出土していることから縄文時代前期の遺物包含層となる。出土土器の型式については、Ⅴａ・Ⅴｃ層が早期末の塞ノ神式から前期の轟Ｂ式、曽畑式（曽畑Ⅰ式・曽畑Ⅱ式）の土器を包含するが、Ⅴｂ層は曽畑式（曽畑Ⅱ式）で占められており、出土する土器の型式が限定された包含層である。第Ⅴ層の形成過程の復元は難しいが、塞ノ神式・轟Ｂ式を包含するⅤａ・Ⅴｃ層については、第Ⅳ層と同じく流れ込みなどの二次堆積が考えられる。このように、第Ⅳ層ならびに第Ⅴ層は、同じ層中より時期の異なる複数型式の土器が確認され、時間幅のある遺物包含層となっていること、河川域に所在する遺跡であるが出土石器組成が狩猟・解体に用いられる道具に突出していることが確認できることから、他所からの流れ込みなど二次堆積層であると推察される。

調査地の立地についてみると、高所からの土砂流入による堆積と河川による侵食を繰り返した結果、帯状の狭小な平坦地が形成されていったものと考えられ、これが二次堆積による遺物包含層である第Ⅳ層ならびに第Ⅴ層が形成される要因のひとつになると思われる。上記により、一里松遺跡に係る人々の集落部などは本調査地とは異なる別の場所にあったことが想定され、河川の上流部に当たる調査地の北から東に広がる台地部や丘陵部、特に平山遺跡Ａ地点や平山遺跡Ｂ地点との関係性を考慮すべきであろう。このほか、出土例の稀有な石製装身具の類例が大村市の竹松遺跡（TAK201404 調査区）で出土していることは、当時の人々の活動範囲を示す資料と理解できる。

このように周辺調査地における事例との比較検討によって、本調査地の調査成果はより明瞭なものになると思われる。今後の方向性としては、同じ大村湾内に所在する伊木力遺跡では丸木船も出土しており、船による海を介した交流も考えられ、この一里松遺跡で出土した曽畑式土器に含まれる滑石は、西彼杵半島に産出するので、長崎県内及び西北九州等の広範囲での関係する遺跡との関係性を吟味することで、その当時、縄文時代の社会復元へのステップが進むものと思われる。（村川）

図　版

写真 16　調査区全景（西から）

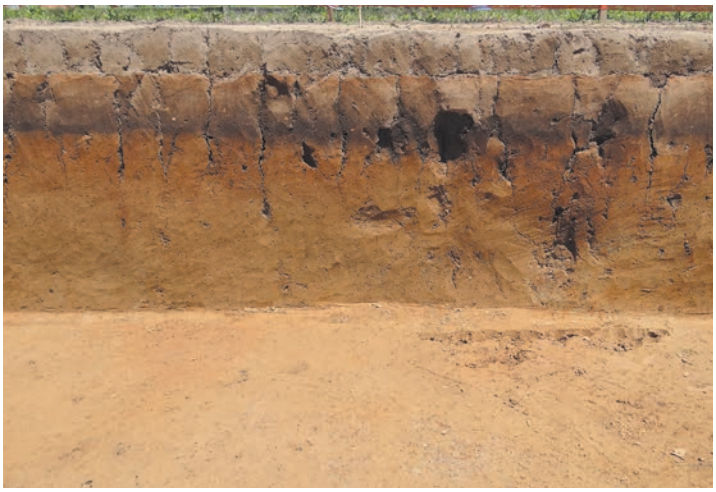


写真 17　1 区東壁土層断面（西から）

写真 18　1 区縄文土器出土状況（東から）

図　版

写真 19　出土縄文土器（写真 18 の接合復元状況）

写真 20　石製装身具出土状況（東から）

写真 21　発掘調査風景

報 告 書 抄 録

ふ り が な	いちりまついせき
書　　名	一里松遺跡
副 書 名	九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	Ⅶ
シリーズ名	新幹線文化財調査事務所調査報告書
シリーズ番号	第7集
編 著 者 名	村川逸朗　ほか
編 集 機 関	長崎県教育委員会
所 在 地	〒850-8570　長崎県長崎市尾上町3番1号　TEL095-824-1111
発 行 年 月	西暦2018年3月

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
一里松遺跡（いちりまついせき）	長崎県（ながさきけん）諫早市（いさはやし）平山町（ひらやままち）52番地（ばんち）5 他（ほか）	42205		32° 57′ 42″	129° 56′ 45″	20160421～20160620	580	九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）路線部建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
一里松遺跡	包蔵地	・縄文	・溝（近現代）	・縄文土器 ・各種石器	

新幹線文化財調査事務所調査報告書　第７集
九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ
一　里　松　遺　跡
平成30年(2018)年3月発行
発行者　長崎県教育委員会
〒850-8570 長崎市尾上町3番1号
TEL０９５－８２４－１１１１
印刷所　第一印刷株式会社
〒856-0820 長崎県大村市協和町774番地1
TEL ０９５７－５３－５１１１